

第2章 調布市民の福祉意識と地域生活に関する調査

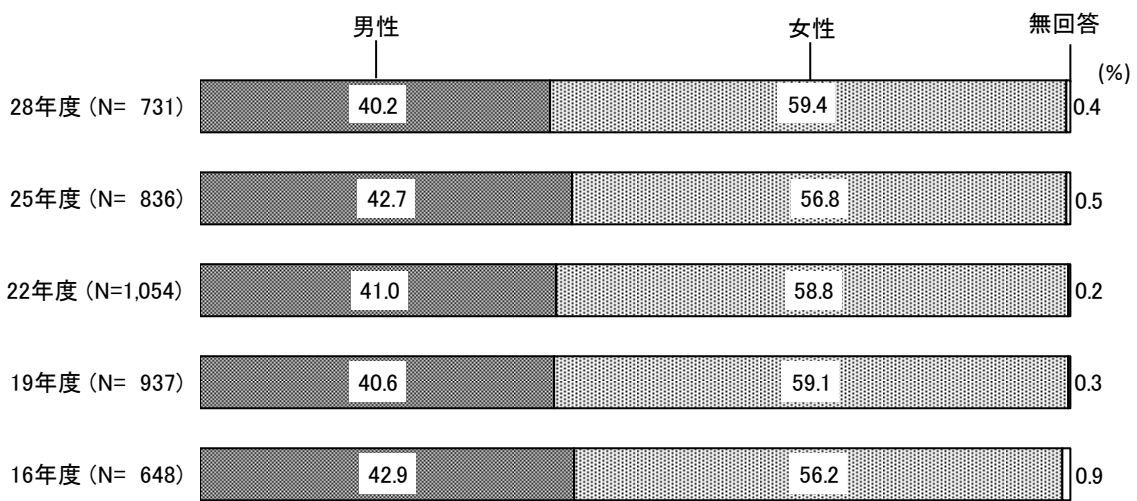
1 基本属性

(1) 性別・年齢（問1）

問1 あなたの性別をお答えください。（1つに○）
また、平成28年10月1日現在の年齢をご記入ください。

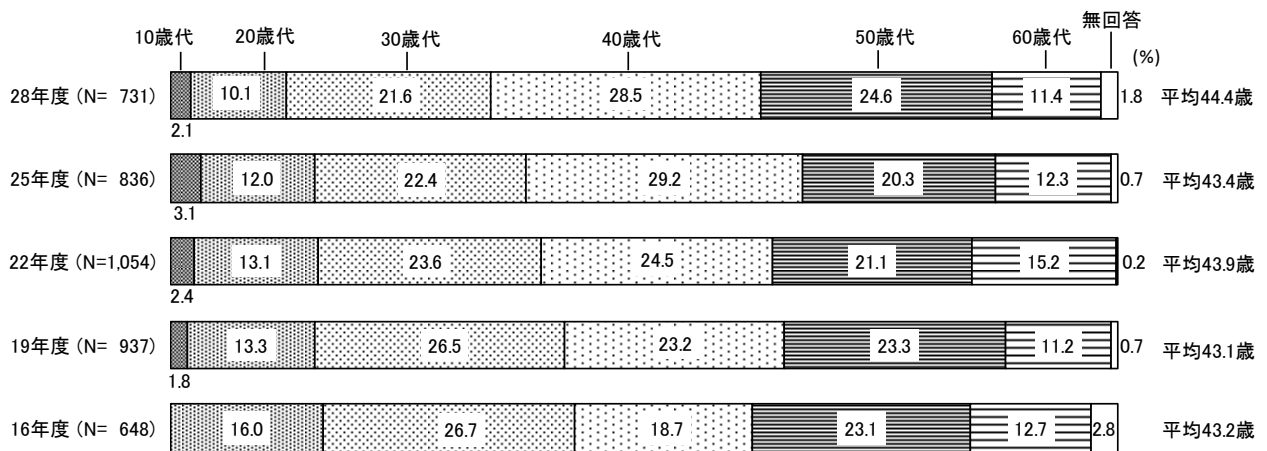
○ 男性が40.2%，女性が59.4%である。

図表 2-1 性別（全体）【経年比較】



○ 平均年齢は44.4歳で、5回の調査で最も高くなっている。

図表 2-2 年齢（全体）【経年比較】

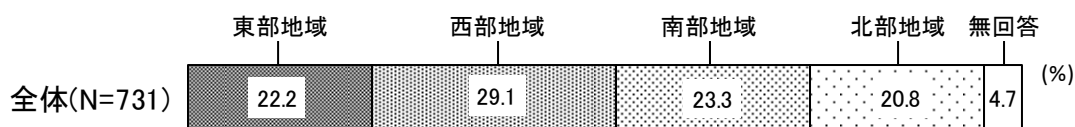


(2) 居住地域 (問2)

問2 お住まいの地域はどこですか。記入例を参考に、【町名】、【丁目】をご記入ください。

- 居住地域は、西部地域 (29.1%) が最も多く、南部地域 (23.3%) が続いている。

図表 2-3 居住地域 (全体)



※それぞれの地域の対応する町名・丁目及び小学校区は、7ページを参照。

(3) 避難所などになっている小学校 (問2-1)

問2-1 お住まいの近くにある、避難所などになっている公立小学校はどれですか。

(1つに○)

- 住まいの近くの避難所などになっている公立小学校は、いずれかの小学校を答えた人は85.0%で、「分からない」は12.4%である。

図表 2-4 避難所などになっている小学校 (全体)

| | 東部地域 | | | | 西部地域 | | | | | | 無回答 | |
|------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|---------|--------|-------|-----|
| | 緑ヶ丘小学校 | 若葉小学校 | 調和小学校 | 滝坂小学校 | 石原小学校 | 第三小学校 | 飛田給小学校 | 第一小学校 | 富士見台小学校 | 多摩川小学校 | 分からない | 無回答 |
| 全体 (N=731) | 2.6 | 6.2 | 5.2 | 4.4 | 4.1 | 4.9 | 2.6 | 5.7 | 3.8 | 4.1 | 12.4 | 2.6 |

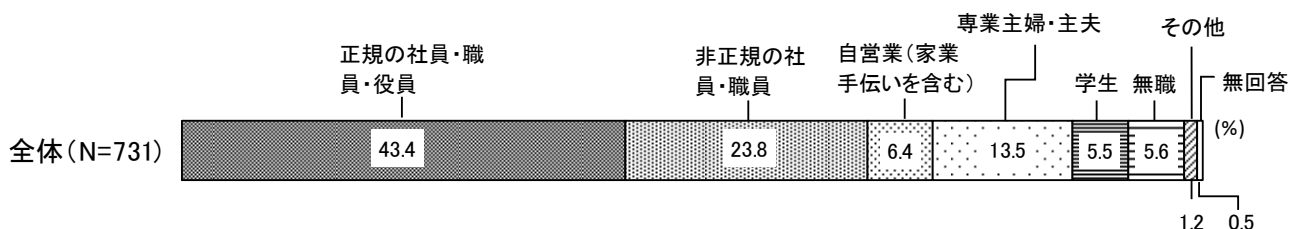
| | 南部地域 | | | | 北部地域 | | | | 無回答 | | | |
|------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|-------|-----|
| | 八雲台小学校 | 国領小学校 | 布田小学校 | 杉森小学校 | 第二小学校 | 染地小学校 | 上ノ原小学校 | 深大寺小学校 | 北ノ台小学校 | 柏野小学校 | 分からない | 無回答 |
| 全体 (N=731) | 5.5 | 4.4 | 4.4 | 3.3 | 3.3 | 1.5 | 6.8 | 3.1 | 5.6 | 3.4 | 12.4 | 2.6 |

(4) 職業 (問3)

問3 あなたのご職業は次のうちどれですか。(1つに○)

- 「正規の社員・職員・役員 (43.4%)」が最も多く、「非正規の社員・職員 (23.8%)」, 「専業主婦・主夫 (13.5%)」が続いている。

図表 2-5 職業 (全体)



2 住まいや居住の様子

(1) 家族構成 (問4)

問4 現在、あなたの世帯の家族構成は、次のうちどれですか。(1つに○)

- 全体では、「両親と子ども (45.3%)」が最も多く、「夫婦のみ (20.0%)」, 「ひとり暮らし (12.6%)」が続いている。
- 地域別にみると、北部地域では「ひとり暮らし」が全体と比べて5.4ポイント低くなっている。

図表 2-6 家族構成 (全体, 地域別)

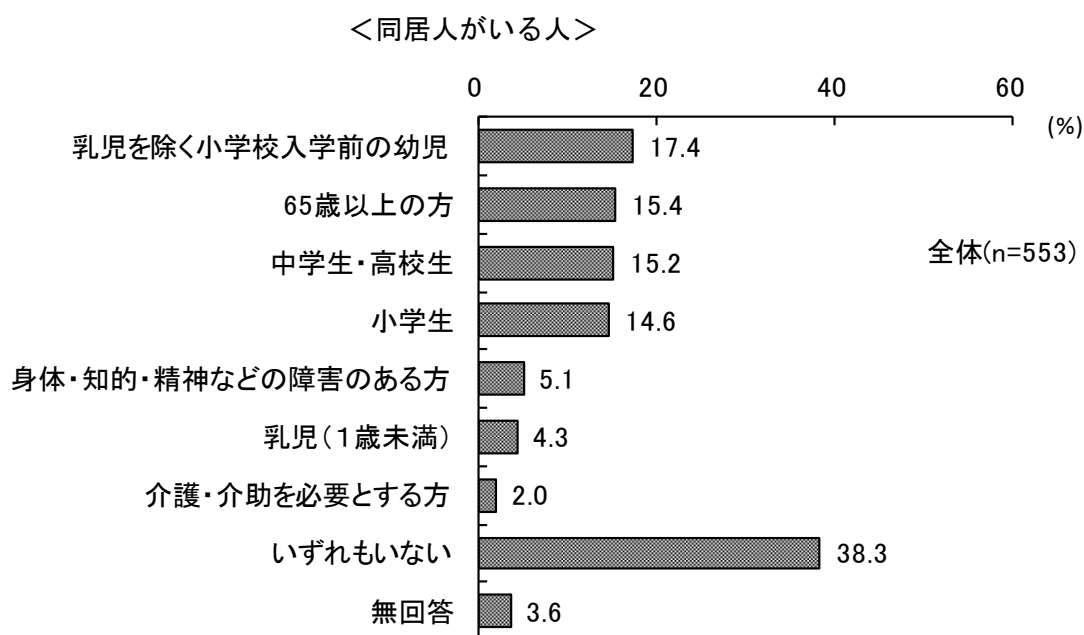
| | | (%) | | | | | | | |
|-----|--------------|--------|------|--------|--------------|--------------|-------|------|-----|
| | | ひとり暮らし | 夫婦のみ | 両親と子ども | 1(8歳以下)の子どもが | 1(8歳未満)の子どもが | 三世帯同居 | その他 | 無回答 |
| 全体 | (N=731) | 12.6 | 20.0 | 45.3 | 5.1 | 2.5 | 3.1 | 10.1 | 1.4 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 15.4 | 18.5 | 46.9 | 5.6 | 0.6 | 2.5 | 9.9 | 0.6 |
| | 西部地域 (n=213) | 13.6 | 20.2 | 44.6 | 4.2 | 1.4 | 3.8 | 10.3 | 1.9 |
| | 南部地域 (n=170) | 13.5 | 21.2 | 41.8 | 7.1 | 4.7 | 2.4 | 8.8 | 0.6 |
| | 北部地域 (n=152) | 7.2 | 19.1 | 50.0 | 3.3 | 3.3 | 3.9 | 11.2 | 2.0 |

(2) 一緒に暮らしている人 (問4-1)

問4-1 問4で2~6(同居人がいる世帯)と答えた方におたずねします。現在、あなた自身、もしくは同居のご家族に次のような方はいますか。(いくつでも○)

- 一緒に暮らしている人は、多い順に、「乳児を除く小学校入学前の幼児(17.4%)」、「65歳以上の方(15.4%)」、「中学生・高校生(15.2%)」、「小学生(14.6%)」、「身体・知的・精神などの障害のある方(5.1%)」、「乳児(1歳未満)(4.3%)」、「介護・介助を必要とする方(2.0%)」である。

図表 2-7 一緒に暮らしている人 (全体：複数回答)



(3) 手助けを頼める親族・知人の有無 (問5)

問5 あなたのお住まいの近く（おおむね徒歩30分以内）には、ちょっとした手助けが必要
なときに、助け合ったりする親族や友人・知人がいますか。（1つに○）

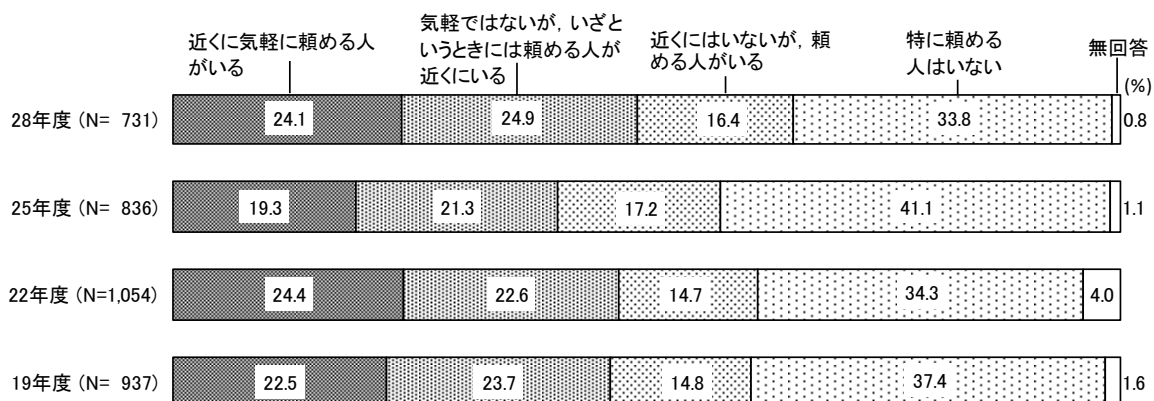
- 全体では、「特に頼める人はいない（33.8%）」が最も多くなっており、約3分の1は手助けを頼める人はいない。
- 性・年代別にみると、男性・50～64歳では42.5%、男性・30～49歳では39.2%が「特に頼める人はいない」と答えており、どちらも全体を上回っている。
- 地域別にみると、いずれの地域も「特に頼める人はいない」が最も多く、西部地域が38.5%で4地域中最も高くなっている。

図表 2-8 手助けを頼める親族・知人の有無（全体、性・年代別、地域別）

| | | | め近 るく 人 に が 気 い 軽 る に 頼 | が 時 近 に く は い で に 頼 ざ は い め と な る い い 人 う | い が 近 く 、 軽 い に 頼 め る 人 が い る | い 特 に い 頼 め る 人 は | 無 回 答 |
|-------------------|--------------|----------------|---|---|---|---|-------------|
| 全 体 (N=731) | | | 24.1 | 24.9 | 16.4 | 33.8 | 0.8 |
| 性・ 年 代 別 | 男 性 | 18～29歳 (n=33) | 42.4 | 9.1 | 24.2 | 24.2 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 21.6 | 20.9 | 17.6 | 39.2 | 0.7 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 21.7 | 23.6 | 12.3 | 42.5 | 0.0 |
| | 女 性 | 18～29歳 (n=56) | 21.4 | 32.1 | 21.4 | 25.0 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 24.8 | 26.1 | 16.1 | 33.0 | 0.0 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 23.7 | 30.1 | 14.7 | 29.5 | 1.9 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | 19.8 | 29.0 | 14.8 | 35.8 | 0.6 | |
| | 西部地域 (n=213) | 24.9 | 21.1 | 15.5 | 38.5 | 0.0 | |
| | 南部地域 (n=170) | 27.1 | 28.2 | 14.1 | 30.6 | 0.0 | |
| | 北部地域 (n=152) | 23.7 | 23.7 | 21.1 | 30.3 | 1.3 | |

- 経年で比較すると、28年度は、19年度から25年度までとほぼ同じ傾向で、「特に頼める人はいない」が最も多くなっている。

図表 2-9 助け合える親族・知人の有無（全体）【経年比較】

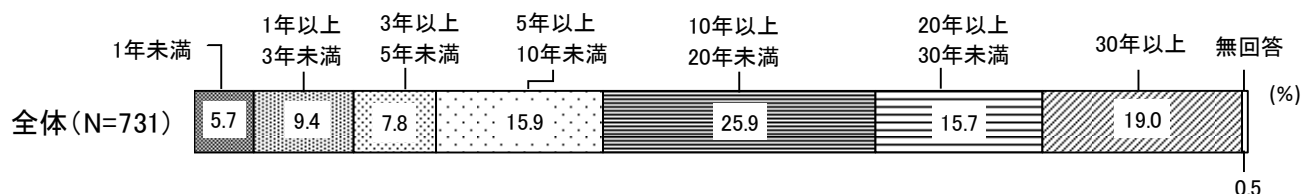


(4) 居住年数 (問6)

問6 あなたは調布市に何年お住まいですか。(1つに○)

- 「10年以上20年未満 (25.9%)」が最も多く、「30年以上 (19.0%)」, 「5年以上10年未満 (15.9%)」, 「20年以上30年未満 (15.7%)」が続いている。「1年未満」は5.7%である。

図表 2-10 居住年数 (全体)



(5) 住居形態 (問7)

問7 あなたのお住まいは、次のどれですか。(1つに○)

- 全体では、「持ち家の一戸建て (36.5%)」が最も多く、「民間賃貸の集合住宅 (27.5%)」, 「持ち家の集合住宅 (25.6%)」が続いている。
- 地域別にみると、東部地域では「民間賃貸の集合住宅 (38.9%)」, 南部地域では「持ち家の集合住宅 (36.5%)」, 北部地域では「持ち家の一戸建て (55.3%)」が、それぞれ全体より10ポイント以上高くなっている。

図表 2-11 住居形態 (全体, 地域別)

| | | 建 持 て ち 家 の 一 戸 | 住 持 ち 家 の 集 合 | 一 民 間 賃 貸 の | 集 民 間 賃 貸 の | 住 宅 (公 市 営 住 宅 な ど) | 住 社 宅 な ど 公 務 員 | そ の 他 | 無 回 答 |
|-------------|--------------|--------------------------------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|---|--------------------------------------|-------------|-------------|
| 全 | 体 (N=731) | 36.5 | 25.6 | 1.8 | 27.5 | 3.4 | 2.9 | 1.9 | 0.4 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | 36.4 | 13.6 | 2.5 | 38.9 | 4.3 | 1.2 | 3.1 | 0.0 |
| | 西部地域 (n=213) | 29.6 | 32.4 | 0.9 | 28.6 | 1.4 | 5.6 | 1.4 | 0.0 |
| | 南部地域 (n=170) | 26.5 | 36.5 | 1.8 | 27.1 | 5.9 | 0.6 | 1.8 | 0.0 |
| | 北部地域 (n=152) | 55.3 | 20.4 | 1.3 | 18.4 | 1.3 | 2.6 | 0.7 | 0.0 |

3 地域生活の状況

(1) 近所づきあいの状況 (問8)

問8 あなたは、日ごろどのような近所づきあいをしていますか。(1つに○)

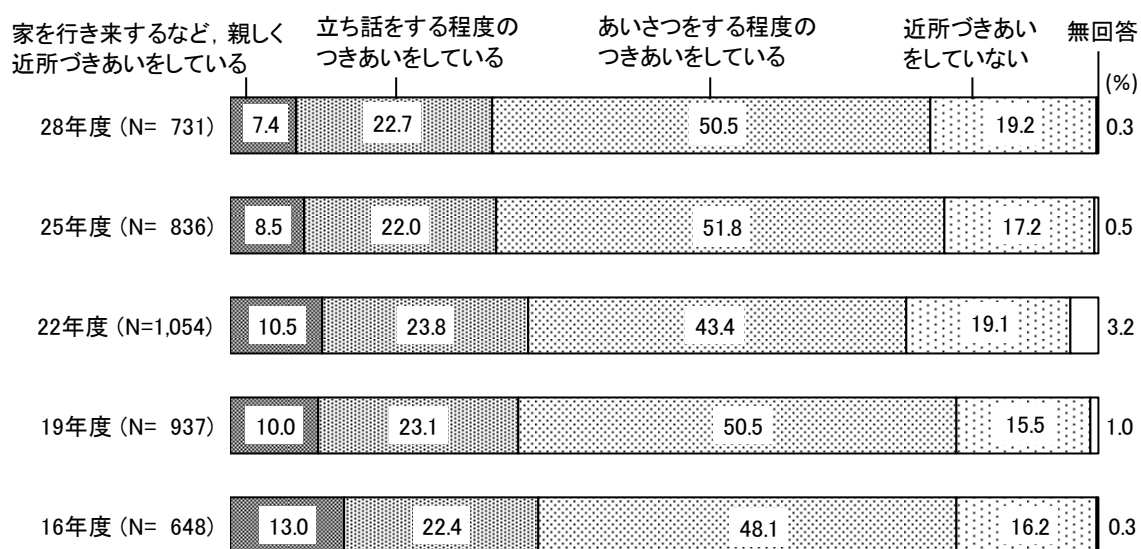
- 全体では、「あいさつをする程度のつきあいをしている」が5割で最も多くなっている。
- 性別にみると、男女ともに「あいさつをする程度のつきあいをしている」が最も多い。特に、女性は「立ち話をする程度のつきあいをしている」が27.4%で男性より11.4ポイント、男性は「あいさつをする程度のつきあいをしている」が59.2%で女性より14.7ポイント高くなっている。
- 年代別にみると、20歳代から60歳代までは、年代が上がるほど「近所づきあいをしていない」の割合が低くなっている。
- 地域別にみると、「近所づきあいをしていない」は、東部地域では全体と比べて4.9ポイント高く、南部地域では全体と比べて3.3ポイント低くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしは「近所づきあいをしていない」が50.0%であり、半数が近所づきあいをしていないことが分かる。

図表 2-12 近所づきあいの状況 (全体, 性別, 年代別, 地域別, 家族構成別)

| | | | きど、家 あ、を い親 をし しく て近 い所 るづ るづな | いの立 るつ ち き話 あを いす を る し 程 て度 | て度あ いのい るつ さ きつ あを いす を る し 程 | て近 い所 な づ き あ い を し | 無 回 答 |
|-----------------------|--------|---------|--|--|---|---|-------------|
| 全 | 体 | (N=731) | 7.4 | 22.7 | 50.5 | 19.2 | 0.3 |
| 性 別 | 男性 | (n=294) | 6.1 | 16.0 | 59.2 | 18.7 | 0.0 |
| | 女性 | (n=434) | 8.3 | 27.4 | 44.5 | 19.6 | 0.2 |
| 年 代 別 | 10歳代 | (n= 15) | 0.0 | 6.7 | 60.0 | 33.3 | 0.0 |
| | 20歳代 | (n= 74) | 1.4 | 8.1 | 50.0 | 39.2 | 1.4 |
| | 30歳代 | (n=158) | 3.8 | 13.3 | 56.3 | 26.6 | 0.0 |
| | 40歳代 | (n=208) | 11.1 | 26.4 | 49.0 | 13.5 | 0.0 |
| | 50歳代 | (n=180) | 6.1 | 28.9 | 52.2 | 12.8 | 0.0 |
| | 60歳代 | (n= 83) | 14.5 | 33.7 | 39.8 | 12.0 | 0.0 |
| 地 域 別 | 東部地域 | (n=162) | 8.0 | 22.8 | 45.1 | 24.1 | 0.0 |
| | 西部地域 | (n=213) | 7.5 | 17.8 | 53.5 | 21.1 | 0.0 |
| | 南部地域 | (n=170) | 7.1 | 25.3 | 51.8 | 15.9 | 0.0 |
| | 北部地域 | (n=152) | 6.6 | 25.7 | 50.7 | 16.4 | 0.7 |
| 家 族 構 成 別 | ひとり暮らし | (n= 92) | 2.2 | 13.0 | 34.8 | 50.0 | 0.0 |
| | その他 | (n=629) | 8.3 | 24.0 | 52.6 | 14.9 | 0.2 |

- 経年で比較すると、16年度から28年度まで、「あいさつをする程度のつきあいをしている」が最も多く、4～5割を占めている。
- また、28年度は「近所づきあいをしていない」が19.2%であり、平成16年度からの調査の中で最も高くなっている。

図表 2-13 近所づきあいの状況（全体）【経年比較】



(2) 近所づきあいをしていない理由 (問8-1)

問8-1 問8で「4. 近所づきあいをしていない」と答えた方におたずねします。
近所づきあいをしていない主な理由は何ですか。(いくつでも○)

- 日ごろの近所づきあいについて、「近所づきあいをしていない」と答えた人にその理由をたずねたところ、**全体**では、「普段つきあう機会がないから (67.1%)」が最も多く、「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから (38.6%)」、「あまりかかわりをもちたくないから (18.6%)」が続いている。
- **性別**にみると、男性は「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」が4割台、「あまりかかわりをもちたくないから」が3割で、全体に比べて高くなっている。
- **年代別**にみると、30歳代では「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」が5割で、全体に比べ10ポイント以上高くなっている。また、40歳代と50歳代では、「普段つきあう機会がないから」が全体と比べて8～10ポイント高く、7割を超えている。
- **地域別**にみると、東部地域と西部地域では「普段つきあう機会がないから」が7割を超えている。

図表 2-14 近所づきあいをしていない理由 (全体, 性別, 年代別, 地域別: 複数回答)

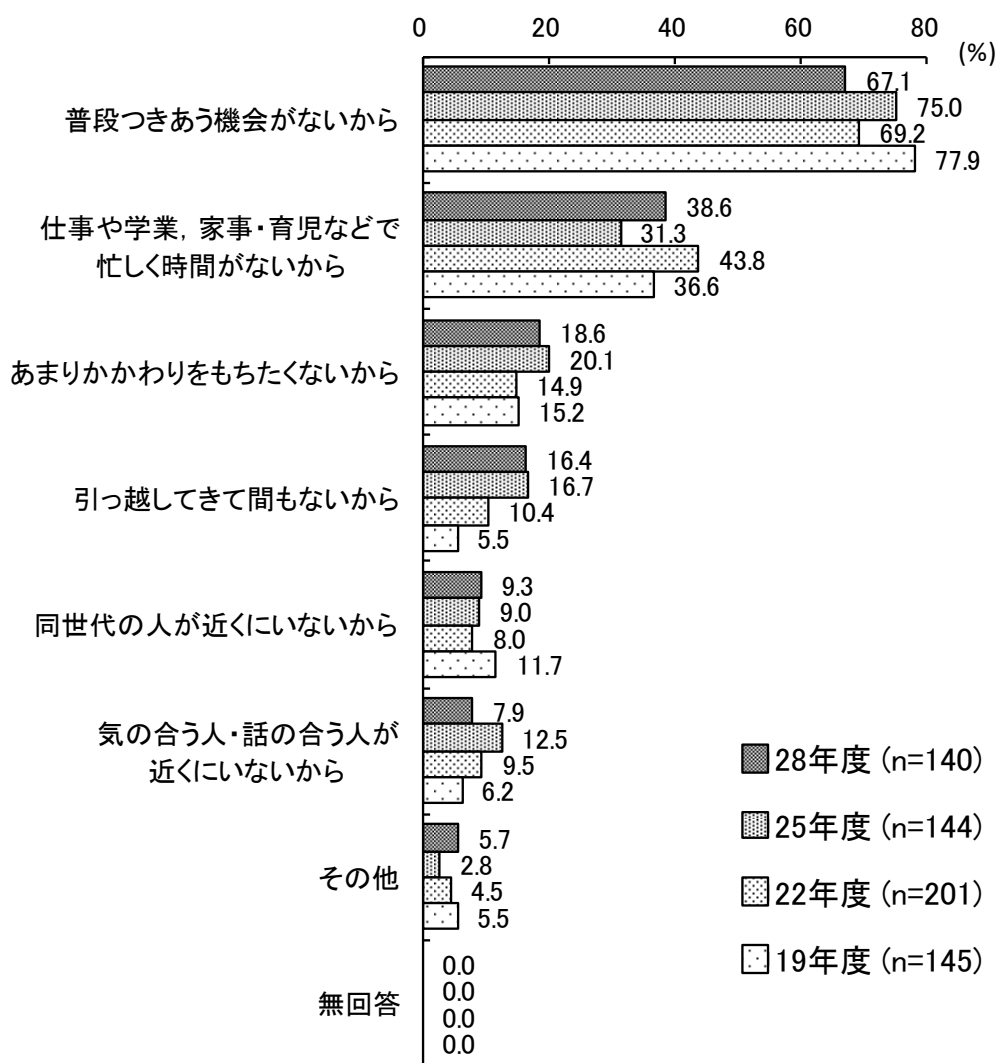
<「近所づきあいをしていない」と回答した人>

| | | (%) | | | | | | | | |
|-------------|--------------|-----------------------------|--|--|--|--|--|--|-------------|-------------|
| | | 間育 が な い か ら | 仕 事 や 学 業 、 家 事 ・ 育 児 な ど で 忙 し く 時 間 ・ | な 引 つ か 越 ら し て き て 間 も | な 普 段 つ き あ う 機 会 が | い 同 世 代 の 人 が 近 く に | か う 気 が 合 う 人 に ・ 話 の 合 | ち あ ま り か か わ り を も | そ の 他 | 無 回 答 |
| 全 体 (n=140) | | 38.6 | 16.4 | 67.1 | 9.3 | 7.9 | 18.6 | 5.7 | 0.0 | |
| 性 別 | 男性 (n= 55) | 45.5 | 14.5 | 67.3 | 12.7 | 7.3 | 30.9 | 3.6 | 0.0 | |
| | 女性 (n= 85) | 34.1 | 17.6 | 67.1 | 7.1 | 8.2 | 10.6 | 7.1 | 0.0 | |
| 年 代 別 | 10歳代 (n= 5) | 80.0 | 40.0 | 40.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| | 20歳代 (n= 29) | 31.0 | 13.8 | 65.5 | 13.8 | 3.4 | 13.8 | 6.9 | 0.0 | |
| | 30歳代 (n= 42) | 50.0 | 19.0 | 61.9 | 4.8 | 0.0 | 9.5 | 4.8 | 0.0 | |
| | 40歳代 (n= 28) | 25.0 | 10.7 | 75.0 | 7.1 | 17.9 | 28.6 | 7.1 | 0.0 | |
| | 50歳代 (n= 23) | 39.1 | 17.4 | 78.3 | 0.0 | 17.4 | 21.7 | 4.3 | 0.0 | |
| | 60歳代 (n= 10) | 20.0 | 10.0 | 60.0 | 20.0 | 0.0 | 50.0 | 10.0 | 0.0 | |
| 地 域 別 | 東部地域 (n= 39) | 41.0 | 10.3 | 74.4 | 12.8 | 5.1 | 15.4 | 10.3 | 0.0 | |
| | 西部地域 (n= 45) | 42.2 | 22.2 | 71.1 | 8.9 | 6.7 | 22.2 | 2.2 | 0.0 | |
| | 南部地域 (n= 27) | 29.6 | 22.2 | 63.0 | 3.7 | 11.1 | 22.2 | 7.4 | 0.0 | |
| | 北部地域 (n= 25) | 32.0 | 12.0 | 56.0 | 12.0 | 12.0 | 16.0 | 4.0 | 0.0 | |

- 経年で比較すると、19年度から28年度まで「普段つきあう機会がないから」が最も多く、約7割を占めている。次いで、「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」、「あまりかかわりを持ちたくないから」が続いている。
- また、28年度は25年度に比べて、「普段つきあう機会がないから」は7.9ポイント低く、「仕事や学業、家事・育児などで忙しく時間がないから」は7.3ポイント高くなっている。

図表 2-15 近所づきあいをしていない理由（全体）【経年比較】

<「近所づきあいをしていない」と回答した人>



(3) 自治会の有無 (問9)

問9 あなたのお住まいの地域には、自治会がありますか。(1つに○)

- 自治会の有無は、全体では、「ある」が約半数である一方、「分からない」も約4割を占めている。
- 地域別にみると、地域による大きな差は見られないが、北部地域では「ない」が11.2%であり、4地域中で唯一、1割を超えている。

図表 2-16 自治会の有無 (全体, 地域別) (%)

| | | ある | ない | な 分 い か ら | 無 回 答 |
|-------------|--------------|------|------|-----------------------|-------------|
| 全 体 (N=731) | | 50.3 | 8.2 | 40.4 | 1.1 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | 50.6 | 6.8 | 42.0 | 0.6 |
| | 西部地域 (n=213) | 50.2 | 6.6 | 41.8 | 1.4 |
| | 南部地域 (n=170) | 50.0 | 8.2 | 40.6 | 1.2 |
| | 北部地域 (n=152) | 49.3 | 11.2 | 39.5 | 0.0 |

(4) 自治会の加入状況 (問9-1)

問9-1 あなたは自治会に加入していますか。(1つに○)

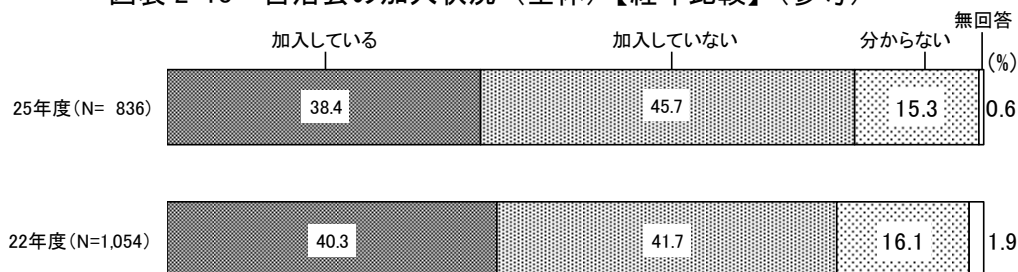
- 自治会が「ある」と答えた人に、自治会に加入しているかどうかたずねたところ、全体では、74.2%が「加入している」と答えている。
- 年代別にみると、「加入している」の割合は、60歳代では89.1%であるのに対し、20歳代は46.9%となっている。
- 地域別にみて、地域による大きな差は見られない。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしの「加入している」は68.0%で、全体に比べ6.2ポイント低くなっている。

図表 2-17 自治会の加入状況 (全体, 年代別, 地域別, 家族構成別) <自治会が「ある」と回答した人> (%)

| | | い 加 る 入 し て | い 加 な 入 い し て | な 分 い か ら | 無 回 答 |
|-----------------------|----------------|----------------------------|---------------------------------|-----------------------|-------------|
| 全 体 (n=368) | | 74.2 | 21.5 | 4.3 | 0.0 |
| 年 代 別 | 10歳代 (n= 9) | 77.8 | 11.1 | 11.1 | 0.0 |
| | 20歳代 (n= 32) | 46.9 | 37.5 | 15.6 | 0.0 |
| | 30歳代 (n= 49) | 67.3 | 28.6 | 4.1 | 0.0 |
| | 40歳代 (n=110) | 75.5 | 19.1 | 5.5 | 0.0 |
| | 50歳代 (n=110) | 75.5 | 23.6 | 0.9 | 0.0 |
| | 60歳代 (n= 55) | 89.1 | 9.1 | 1.8 | 0.0 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n= 82) | 73.2 | 23.2 | 3.7 | 0.0 |
| | 西部地域 (n=107) | 74.8 | 20.6 | 4.7 | 0.0 |
| | 南部地域 (n= 85) | 76.5 | 20.0 | 3.5 | 0.0 |
| | 北部地域 (n= 75) | 73.3 | 20.0 | 6.7 | 0.0 |
| 家 族 構 成 別 | ひとり暮らし (n= 25) | 68.0 | 28.0 | 4.0 | 0.0 |
| | その他 (n=338) | 75.1 | 20.4 | 4.4 | 0.0 |

- 経年で比較すると、28年度は、回答者全体の731人のうち、273人が「加入している」と回答しているので、加入している割合は37.3%になる。
- 22年度・25年度と比較すると、「加入している」の割合は減少傾向にある。

図表 2-18 自治会の加入状況（全体）【経年比較】（参考）



※22, 25年度は「自治会の有無」はたずねていない

(5) 自治会に加入していない理由（問9-2）

問9-2 加入していない理由は何ですか。（いくつでも○）

- 自治会に「加入していない」と回答した人にその理由をたずねたところ、全体では、「時間がないから（27.8%）」が最も多く、「きっかけがないから（26.6%）」、「メリットを感じないから（21.5%）」、「役割を果たせないから（21.5%）」が続いている。
- 年代別にみると、20歳代では「きっかけがないから（50.0%）」、30歳代では「時間がないから（50.0%）」、40歳代では「時間がないから（28.6%）」と「役割を果たせないから（28.6%）」、50歳代では「メリットを感じないから（34.6%）」が、それぞれ最も多くなっている。
- 地域別にみると、東部地域では「メリットを感じないから（26.3%）」、西部地域では「きっかけがないから（40.9%）」、南部地域と北部地域では「時間がないから（南部地域：35.3%、北部地域：33.3%）」が最も多くなっている。

図表 2-19 自治会に加入していない理由（全体，年代別，地域別：複数回答）

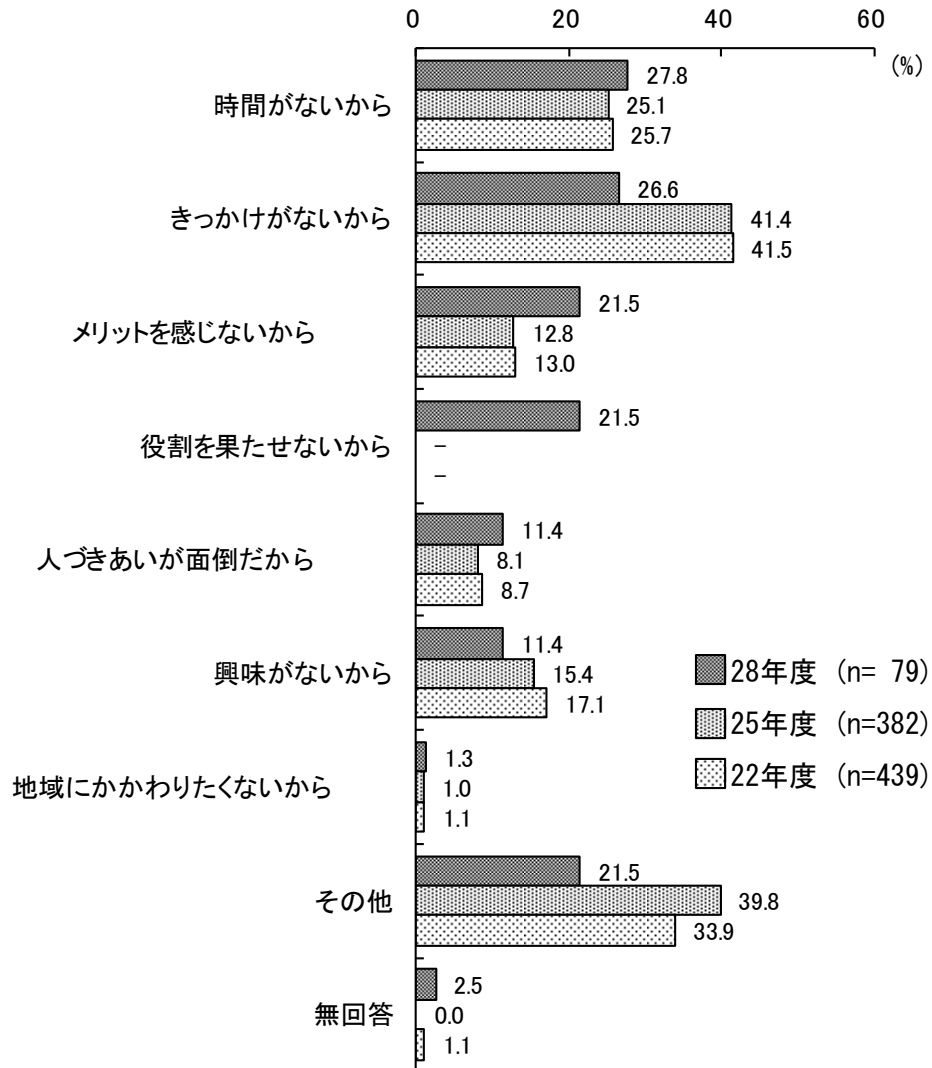
<自治会があるが「加入していない」と回答した人>

| | | ら感メリ じリッ なッ いた かを | か時 ら間 が ない | なき いつ かけ が | らが人 面づ 倒き だあ かい | か興 ら味 が ない | いわ地 かり域 らたに くなか | せ役 な割 いを 果た | そ の 他 | 無 回 答 |
|-------------|-------------|-------------------------------|---------------------|---------------------|-----------------------------|---------------------|--------------------------|----------------------|-------------|-------------|
| 全 | 体 (n=79) | 21.5 | 27.8 | 26.6 | 11.4 | 11.4 | 1.3 | 21.5 | 21.5 | 2.5 |
| 年 代 別 | 10歳代 (n= 1) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 20歳代 (n=12) | 16.7 | 25.0 | 50.0 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 25.0 | 16.7 | 0.0 |
| | 30歳代 (n=14) | 7.1 | 50.0 | 42.9 | 0.0 | 7.1 | 0.0 | 0.0 | 14.3 | 0.0 |
| | 40歳代 (n=21) | 19.0 | 28.6 | 19.0 | 14.3 | 4.8 | 4.8 | 28.6 | 33.3 | 0.0 |
| | 50歳代 (n=26) | 34.6 | 23.1 | 15.4 | 23.1 | 11.5 | 0.0 | 23.1 | 19.2 | 3.8 |
| | 60歳代 (n= 5) | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 20.0 | 20.0 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=19) | 26.3 | 15.8 | 21.1 | 15.8 | 10.5 | 0.0 | 21.1 | 21.1 | 0.0 |
| | 西部地域 (n=22) | 9.1 | 22.7 | 40.9 | 4.5 | 9.1 | 0.0 | 27.3 | 18.2 | 4.5 |
| | 南部地域 (n=17) | 29.4 | 35.3 | 23.5 | 17.6 | 17.6 | 0.0 | 17.6 | 23.5 | 5.9 |
| | 北部地域 (n=15) | 26.7 | 33.3 | 20.0 | 13.3 | 6.7 | 6.7 | 20.0 | 20.0 | 0.0 |

Ⅱ アンケート調査の結果

- 経年で比較すると、22年度・25年度は「きっかけがないから」が最も多く約4割であったが、28年度は「時間がないから」が最も多くなっている。

図表 2-20 自治会に加入していない理由（全体）【経年比較】
 <自治会があるが「加入していない」と回答した人>

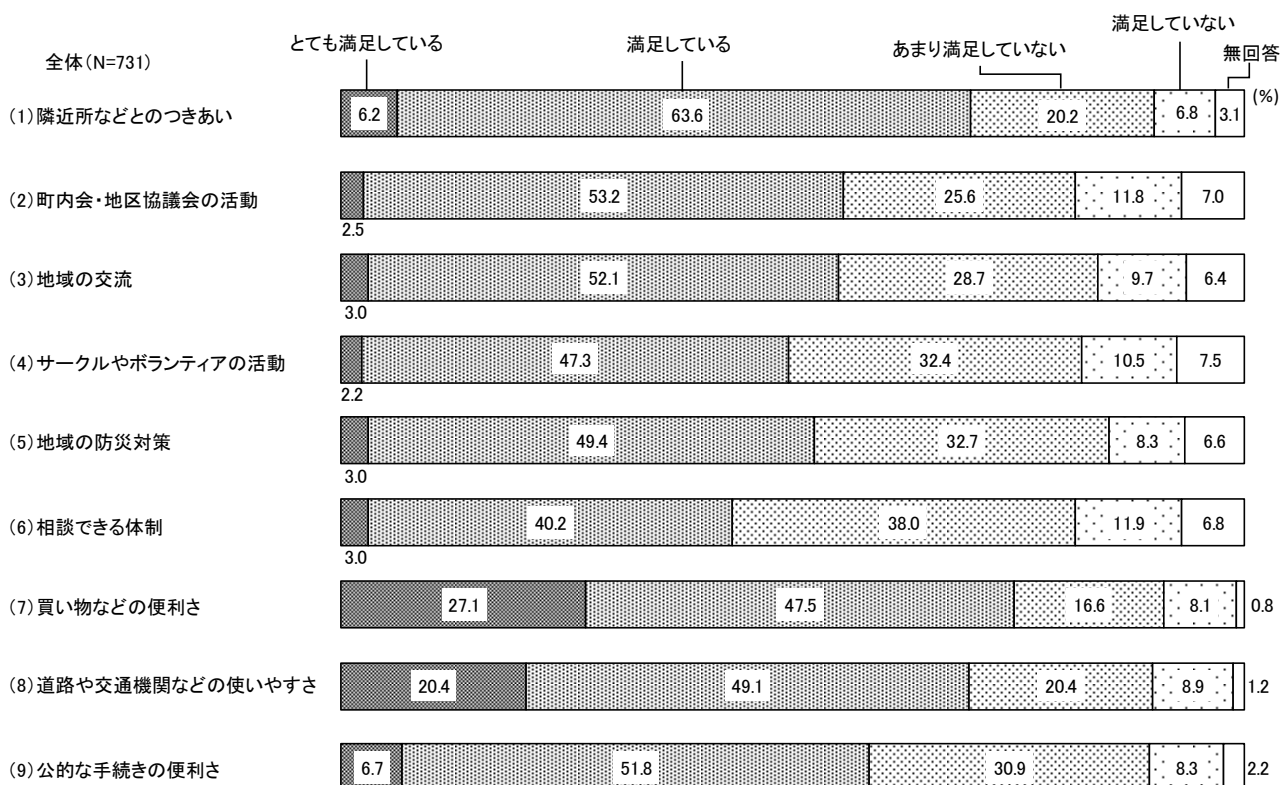


(6) 地域の暮らしの満足度 (問10)

問10 あなたは現在、お住まいの地域の暮らしについて、どのように感じていますか。
 (1)～(9)について、それぞれ1つに○をつけてください。

- 地域の暮らしの満足度は、『買い物などの便利さ』、『隣近所などとのつきあい』、『道路や交通機関などの使いやすさ』では、《満足している》*がそれぞれ74.6%、69.8%、69.5%と高くなっている。
- 一方、『相談できる体制』、『サークルやボランティアの活動』、『地域の防災対策』、『公的な手続きの便利さ』では、《満足していない》がそれぞれ49.9%、42.9%、41.0%、39.2%と高くなっている。

図表 2-21 地域の暮らしの満足度 (全体)



※ 《満足している》: 「とても満足している」と「満足している」の合計
 《満足していない》: 「あまり満足していない」と「満足していない」の合計

4 日ごろの悩みと相談

(1) 地域の暮らしの中での不安や課題 (問 11)

問 11 あなたは、身近な地域の中で不安や課題と感じていることはありますか。

(いくつでも○)

- 身近な地域の中で不安や課題と感じていることは、**全体**では、「災害時のこと (43.0%)」が最も多く、「老後の生活のこと (37.2%)」, 「防犯, 地域の安全のこと (31.2%)」が続いている。
- **性・年代別**にみると, 男性・18～29 歳では「経済的なこと」, 男性・30～49 歳では「子育て, 子どもの教育のこと」, 女性・18～29 歳と女性・30～49 歳では「災害時のこと」, 男性・50～64 歳と女性・50～64 歳では「老後の生活のこと」が最も高くなっている。また, いずれの年代でも, 「子育て, 子どもの教育のこと」は男性の方が女性より高く, 「災害時のこと」は女性の方が男性より高くなっている。
- **地域別**にみると, 西部地域では「気軽に相談できる人 (機関) が少ないこと」, 南部地域では「老後の生活のこと」, 「仕事のこと」, 「経済的なこと」が, それぞれ全体と比べて4～7ポイント程度高くなっている。
- **家族構成別**にみると, ひとり暮らしの人は「仕事のこと」が3割台, 「経済的なこと」が4割で, 全体より高くなっている。
- **地域のつながり感別**にみると, 地域のつながりを《感じない》人は《感じる》人に比べ, 「気軽に相談できる人 (機関) が少ないこと」が5.4ポイント高くなっている。

図表 2-22 地域の暮らしの中での不安や課題

(全体、性・年代別、地域別、家族構成別、地域のつながり感別：複数回答)

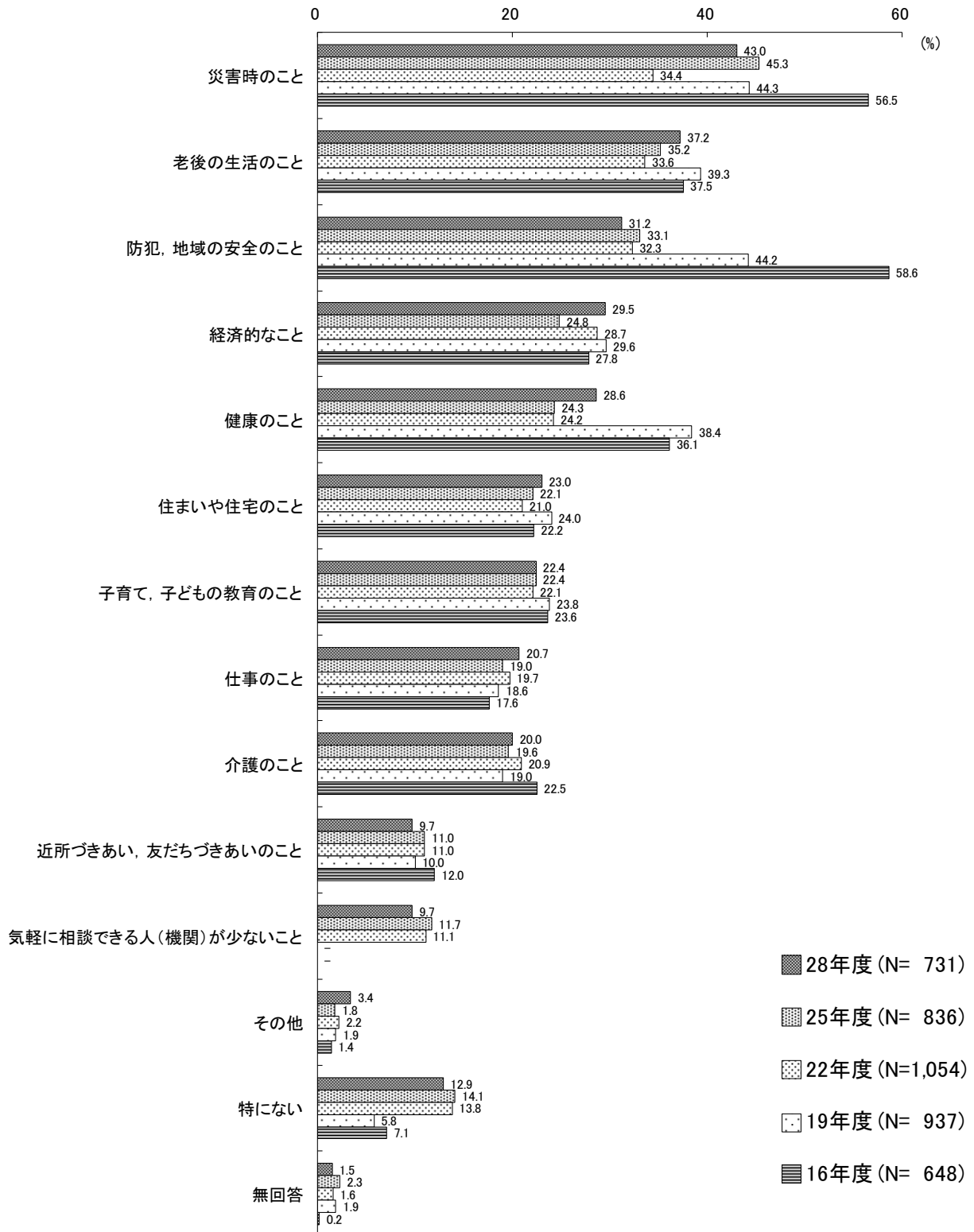
| | | | | | | | | (%) | |
|--------------|----------------|----------------|-------------------|-----------|---------------|----------------------|---------------------------|-----------------------|----------------------------|
| | | | の子 教育で、 子ども | 健康 のこと | 介 護の こと | と老 後の 生活の こ | こ住 とま いや 住宅 の | 仕 事 の こ と | 経 済 的 な こ と |
| 全 体 (N=731) | | | 22.4 | 28.6 | 20.0 | 37.2 | 23.0 | 20.7 | 29.5 |
| 性・ 年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 18.2 | 27.3 | 18.2 | 15.2 | 15.2 | 21.2 | 36.4 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 45.9 | 26.4 | 12.8 | 21.6 | 23.6 | 16.9 | 24.3 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 10.4 | 33.0 | 28.3 | 55.7 | 22.6 | 18.9 | 27.4 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 8.9 | 12.5 | 5.4 | 17.9 | 10.7 | 23.2 | 25.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 30.3 | 31.2 | 22.9 | 36.7 | 27.5 | 26.1 | 34.4 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 5.1 | 30.8 | 23.1 | 51.9 | 24.4 | 17.9 | 28.8 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | | 21.6 | 30.2 | 17.9 | 25.9 | 24.1 | 18.5 | 22.8 |
| | 西部地域 (n=213) | | 24.4 | 27.7 | 18.8 | 38.0 | 23.9 | 19.7 | 32.4 |
| | 南部地域 (n=170) | | 19.4 | 30.0 | 18.2 | 44.7 | 27.6 | 27.6 | 34.1 |
| | 北部地域 (n=152) | | 25.7 | 28.3 | 25.0 | 38.2 | 16.4 | 17.8 | 27.0 |
| 家族構成別 | ひとり暮らし (n= 92) | | 2.2 | 32.6 | 7.6 | 40.2 | 27.2 | 34.8 | 38.0 |
| | その他 (n=629) | | 25.6 | 28.0 | 21.8 | 36.9 | 22.4 | 18.9 | 28.5 |
| 地域の つながり感 | 感じる (n=321) | | 25.5 | 26.2 | 19.9 | 37.1 | 22.4 | 18.7 | 26.8 |
| | 感じない (n=400) | | 20.3 | 30.5 | 19.3 | 37.3 | 23.8 | 22.3 | 31.8 |

| | | | の友近 こだ所 とちづ づきあ あいい | 全防 のこ と、地 域の 安 | 災 害 時 の こ と | 少 る 人 に 機 関 が き | そ の 他 | 特 に な い | 無 回 答 |
|--------------|----------------|----------------|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------------------------|-------------|------------------|-------------|
| 全 体 (N=731) | | | 9.7 | 31.2 | 43.0 | 9.7 | 3.4 | 12.9 | 1.5 |
| 性・ 年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 6.1 | 21.2 | 30.3 | 9.1 | 0.0 | 24.2 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 12.2 | 35.8 | 39.9 | 8.1 | 4.7 | 12.8 | 0.7 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 10.4 | 29.2 | 37.7 | 12.3 | 1.9 | 15.1 | 2.8 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 10.7 | 26.8 | 48.2 | 5.4 | 5.4 | 25.0 | 3.6 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 7.3 | 33.5 | 47.7 | 9.2 | 3.7 | 6.0 | 0.9 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 10.9 | 29.5 | 45.5 | 11.5 | 3.2 | 14.1 | 0.6 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | | 8.6 | 32.7 | 45.1 | 9.3 | 4.3 | 14.2 | 0.0 |
| | 西部地域 (n=213) | | 12.2 | 34.3 | 44.1 | 13.1 | 4.2 | 12.7 | 2.3 |
| | 南部地域 (n=170) | | 8.8 | 31.8 | 43.5 | 8.2 | 2.9 | 10.0 | 0.6 |
| | 北部地域 (n=152) | | 8.6 | 28.3 | 42.8 | 6.6 | 1.3 | 13.2 | 2.0 |
| 家族構成別 | ひとり暮らし (n= 92) | | 13.0 | 25.0 | 40.2 | 16.3 | 2.2 | 17.4 | 2.2 |
| | その他 (n=629) | | 9.1 | 32.4 | 43.4 | 8.9 | 3.7 | 12.2 | 1.3 |
| 地域の つながり感 | 感じる (n=321) | | 7.5 | 28.7 | 40.8 | 6.9 | 4.4 | 15.0 | 0.9 |
| | 感じない (n=400) | | 11.8 | 33.5 | 45.0 | 12.3 | 2.8 | 11.5 | 1.8 |

II アンケート調査の結果

- 経年で比較すると、28年度は「経済的なこと」、「健康のこと」が25年度と比べてそれぞれ4.7ポイント、4.3ポイント高く、どちらも約3割となっている。
- また、「災害時のこと」と「防犯，地域の安全のこと」は、16年度は5割を超えていたが、22年度には3割台まで低くなっている。「災害時のこと」はその後4割台まで再び高くなっており、東日本大震災の経験によるものと考えられる。

図表 2-23 地域の暮らしの中での不安や課題（全体：複数回答）【経年比較】

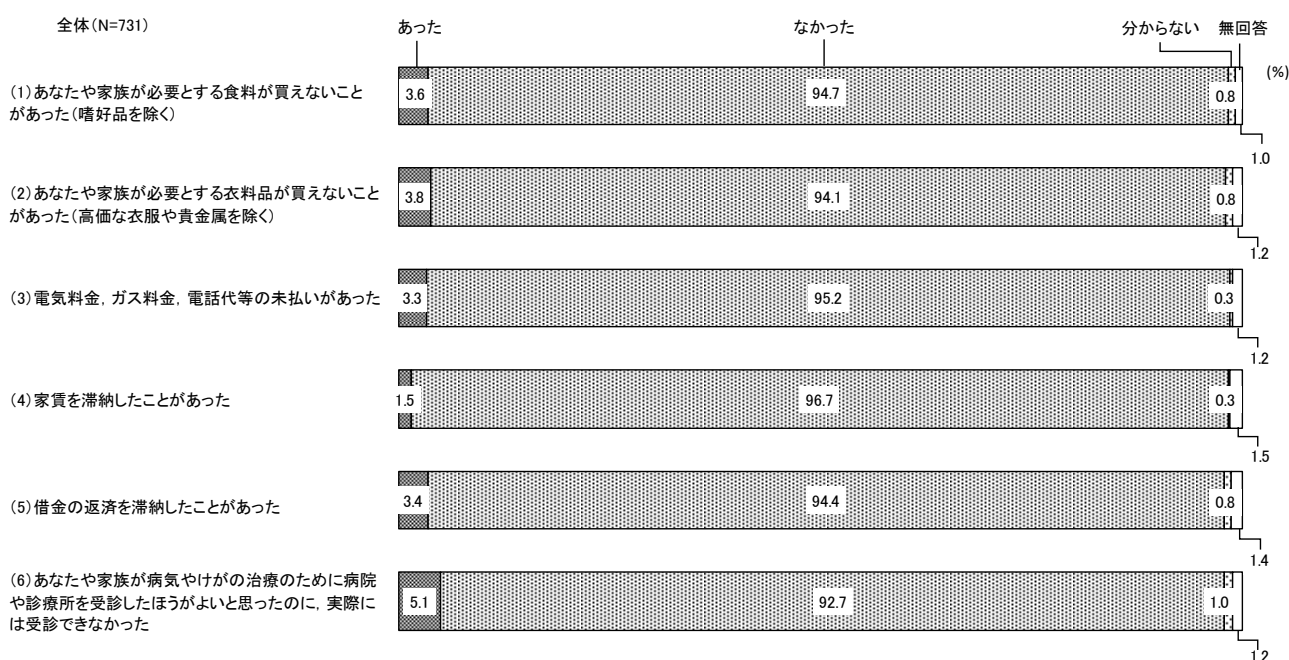


(2) 経済的な理由で困った経験の有無 (問 12)

問 12 あなたは、過去1年間の間に、経済的な理由で次のような経験がありましたか。
 (1)～(6)について、それぞれ1つに○をつけてください。

○ 「あった」の割合はすべての項目で1割未満であり、最も高いのは「あなたや家族が病気やけがの治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診できなかった (5.1%)」である。

図表 2-24 経済的な理由で困った経験の有無 (全体)



- 経済的困窮の有無の経験は、全体では、《経済的困窮の経験あり》*は9.4%である。
- 性・年代別にみると、《経済的困窮の経験あり》の割合は、女性・30～49歳が最も高く、1割を超えている。また、いずれの年代でも、女性の方が男性より《経済的困窮の経験あり》の割合が高くなっている。
- 地域別にみると、《経済的困窮の経験あり》は南部地域が12.4%で最も高く、西部地域(10.3%)が続いている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らし(15.2%)は全体と比べて5.8ポイント高くなっている。

図表 2-25 経済的な理由で困った経験の有無（全体、性・年代別、地域別、家族構成別）

| | | | (%) | | |
|-------------|----------------|----------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | の経済的 あり窮 | の経済的 なし窮 | 無 回 答 |
| 全 体 (N=731) | | | 9.4 | 90.6 | 0.0 |
| 性・ 年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 3.0 | 97.0 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 7.4 | 92.6 | 0.0 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 7.5 | 92.5 | 0.0 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 7.1 | 92.9 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 12.4 | 87.6 | 0.0 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 10.9 | 89.1 | 0.0 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | | 7.4 | 92.6 | 0.0 |
| | 西部地域 (n=213) | | 10.3 | 89.7 | 0.0 |
| | 南部地域 (n=170) | | 12.4 | 87.6 | 0.0 |
| | 北部地域 (n=152) | | 8.6 | 91.4 | 0.0 |
| 家族構成別 | ひとり暮らし (n= 92) | | 15.2 | 84.8 | 0.0 |
| | その他 (n=629) | | 8.6 | 91.4 | 0.0 |

※《経済的困窮の経験あり》：問 12 の 6 項目でひとつでも「あった」に回答した人
 《経済的困窮の経験なし》：問 12 の 6 項目ですべて「なかった」に回答した人

(3) 困ったときの身近な相談相手（人・機関）（問 13）

問 13 あなたが、日常生活の中で困ったとき、主に相談できる人・機関は次のうちどれですか。（いくつでも○）

- 全体では、「同居の家族（72.2%）」が最も多く、「別居の家族や親戚（62.1%）」、「友人・知人（61.8%）」と続いている。また、「身近に相談できる人・機関はない」は 2.1%である。
- 性・年代別にみると、男性・50～64 歳では 5.7%が「身近に相談できる人・機関はない」と答えており、全体に比べ高くなっている。
- 地域別にみると、北部地域では「かかりつけ医や保健師など医療関係者（5.3%）」が全体と比べて 5.1 ポイント低くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしの人は「身近に相談できる人・機関はない」の割合が 4.3%であり、全体に比べ 2.2 ポイント高くなっている。
- 経済的困窮の経験別にみると、《経験なし》では「同居の家族（74.6%）」が 7 割を超えているのに対し、《経験あり》は 49.3%であり、25.3 ポイントの差が生じている。また、《経験あり》では「身近に相談できる人・機関はいない」が 10.1%と、1 割を超えている。

図表 2-26 困ったときの身近な相談相手（人・機関）
 （全体、性・年代別、地域別、家族構成別、経済的困窮の経験別：複数回答）

| | | 同居の家族 | や別居の親戚 | 自治会の近所の人 | 友人・知人 | 児童生委員 | ネット地域 | 地域の事業者 | 介護施設 | 保健関係者 | かかりつけ医 | 市役所 |
|-------------|----------------|----------------|--------|----------|-------|-------|-------|--------|------|-------|--------|-----|
| 全 体 (N=731) | | 72.2 | 62.1 | 2.9 | 61.8 | 0.5 | 0.4 | 1.2 | 10.4 | 8.8 | | |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 75.8 | 39.4 | 0.0 | 69.7 | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | 15.2 | |
| | | 30～49歳 (n=148) | 73.6 | 70.3 | 1.4 | 60.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.1 | 7.4 | |
| | | 50～64歳 (n=106) | 72.6 | 52.8 | 1.9 | 41.5 | 0.9 | 0.0 | 1.9 | 14.2 | 10.4 | |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 71.4 | 51.8 | 1.8 | 76.8 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 8.9 | 3.6 | |
| | | 30～49歳 (n=218) | 71.1 | 67.4 | 3.7 | 68.8 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 13.3 | 6.4 | |
| | | 50～64歳 (n=156) | 73.1 | 62.8 | 5.1 | 60.3 | 0.0 | 1.3 | 3.8 | 10.9 | 12.2 | |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 68.5 | 55.6 | 4.3 | 61.7 | 0.6 | 0.6 | 0.6 | 11.1 | 6.8 | | |
| | 西部地域 (n=213) | 68.1 | 64.8 | 1.9 | 63.4 | 0.9 | 0.0 | 2.3 | 12.2 | 10.8 | | |
| | 南部地域 (n=170) | 75.3 | 61.8 | 1.2 | 67.1 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 12.9 | 9.4 | | |
| | 北部地域 (n=152) | 79.6 | 67.1 | 2.6 | 53.9 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 5.3 | 6.6 | | |
| 家族構成別 | ひとり暮らし (n= 92) | 1.1 | 75.0 | 1.1 | 77.2 | 1.1 | 1.1 | 0.0 | 10.9 | 10.9 | | |
| | その他 (n=629) | 82.5 | 60.4 | 3.0 | 59.9 | 0.3 | 0.3 | 1.4 | 10.2 | 8.3 | | |
| 経済的困窮の経験別 | 経験あり (n= 69) | 49.3 | 53.6 | 0.0 | 52.2 | 1.4 | 1.4 | 2.9 | 11.6 | 15.9 | | |
| | 経験なし (n=662) | 74.6 | 63.0 | 3.2 | 62.8 | 0.5 | 0.3 | 1.1 | 10.3 | 8.0 | | |

| | | 社会福祉協議会 | 地域センター | ボランティア | 子ども支援センター | 子育て支援センター | サポーター | その他 | 機関は関係ない | 身近に相談する人 | 無回答 |
|-------------|----------------|----------------|--------|--------|-----------|-----------|-------|------|---------|----------|-----|
| 全 体 (N=731) | | 0.8 | 1.1 | 0.1 | 2.5 | 0.1 | 3.6 | 2.1 | 0.8 | | |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | |
| | | 30～49歳 (n=148) | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 2.7 | 0.0 | 2.7 | 0.7 | 0.7 | |
| | | 50～64歳 (n=106) | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.0 | 1.9 | 5.7 | 1.9 | |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 7.1 | 1.8 | 0.0 | |
| | | 30～49歳 (n=218) | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 5.0 | 0.0 | 3.7 | 1.8 | 0.5 | |
| | | 50～64歳 (n=156) | 0.6 | 3.8 | 0.0 | 0.6 | 0.6 | 2.6 | 1.9 | 0.6 | |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 0.6 | 0.6 | 0.6 | 1.9 | 0.0 | 4.3 | 1.9 | 0.6 | | |
| | 西部地域 (n=213) | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 2.8 | 0.0 | 4.7 | 1.4 | 0.5 | | |
| | 南部地域 (n=170) | 1.8 | 2.9 | 0.0 | 3.5 | 0.6 | 2.4 | 2.9 | 0.6 | | |
| | 北部地域 (n=152) | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 2.0 | 2.6 | 1.3 | | |
| 家族構成別 | ひとり暮らし (n= 92) | 1.1 | 1.1 | 1.1 | 0.0 | 1.1 | 6.5 | 4.3 | 2.2 | | |
| | その他 (n=629) | 0.8 | 1.1 | 0.0 | 2.9 | 0.0 | 3.0 | 1.7 | 0.5 | | |
| 経済的困窮の経験別 | 経験あり (n= 69) | 2.9 | 1.4 | 0.0 | 1.4 | 1.4 | 2.9 | 10.1 | 0.0 | | |
| | 経験なし (n=662) | 0.6 | 1.1 | 0.2 | 2.6 | 0.0 | 3.6 | 1.2 | 0.9 | | |

（4）手助けの希望、地域で困っている人への手助けの経験、今後の意向（問 14）

問 14 ①あなたは次のような手助けをしてほしいと思いますか。
 ②また、高齢者や障害のある方、子育てなどで困っている近所のご家庭などに対して、あなたは次のような手助けをしたことがありますか。
 ③また、次のような手助けを今後したいと思いますか。
 （1）～（8）について、①～③のそれぞれ1つに○をつけてください。

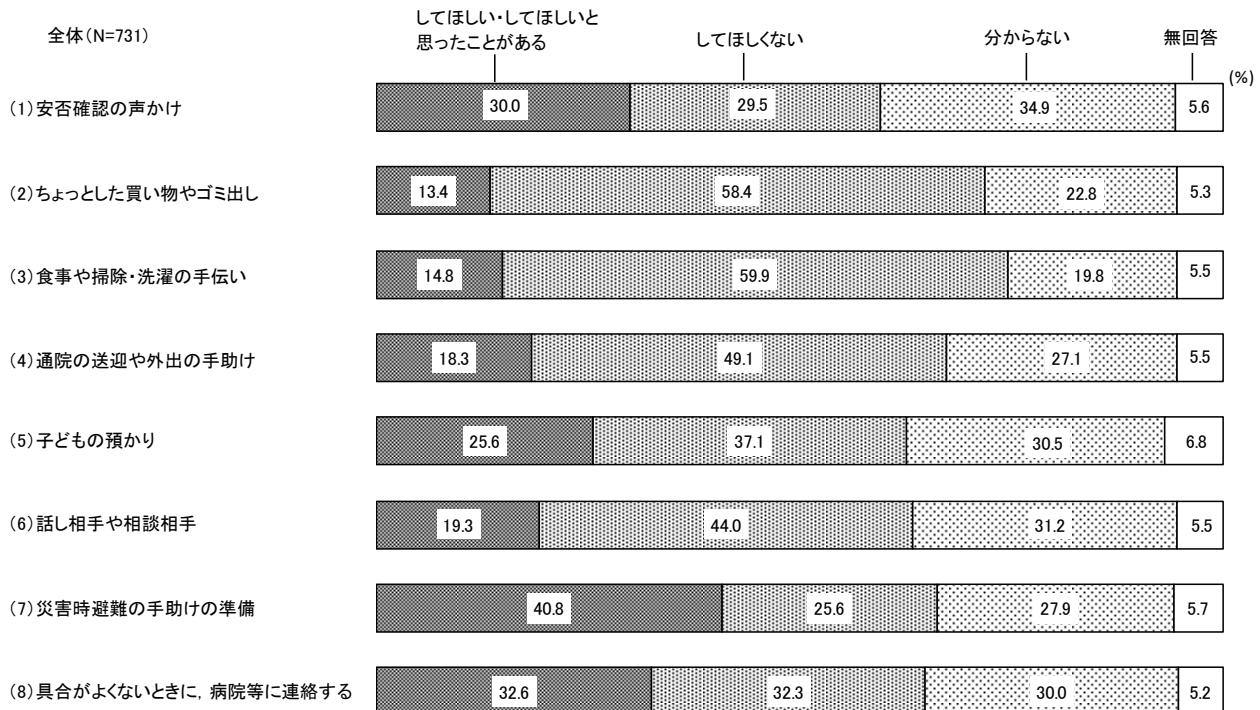
① 手助けの希望

○ 『災害時避難の手助けの準備』、『具合がよくないときに、病院等に連絡する』では、「してほしい・してほしいと思ったことがある」の割合がそれぞれ 40.8%、32.6%と高くなっている。

II アンケート調査の結果

- 一方、『食事や掃除・洗濯の手伝い』、『ちょっとした買い物やゴミ出し』では、「してほしい」の割合がそれぞれ 59.9%、58.4%と高くなっている。

図表 2-27 手助けの希望（全体）



- 「してほしい・してほしいと思ったことがある」の割合を地域別にみると、すべての地域で『災害時避難の手助けの準備』が最も高くなっている。
- また、東部地域では、『災害時避難の手助けの準備』が5割、『具合がよくないときに病院等に連絡する』が4割で、全体より高くなっている。北部地域では『子どもの預かり』が3割で、全体より高くなっている。

図表 2-28 手助けの希望（全体，地域別）

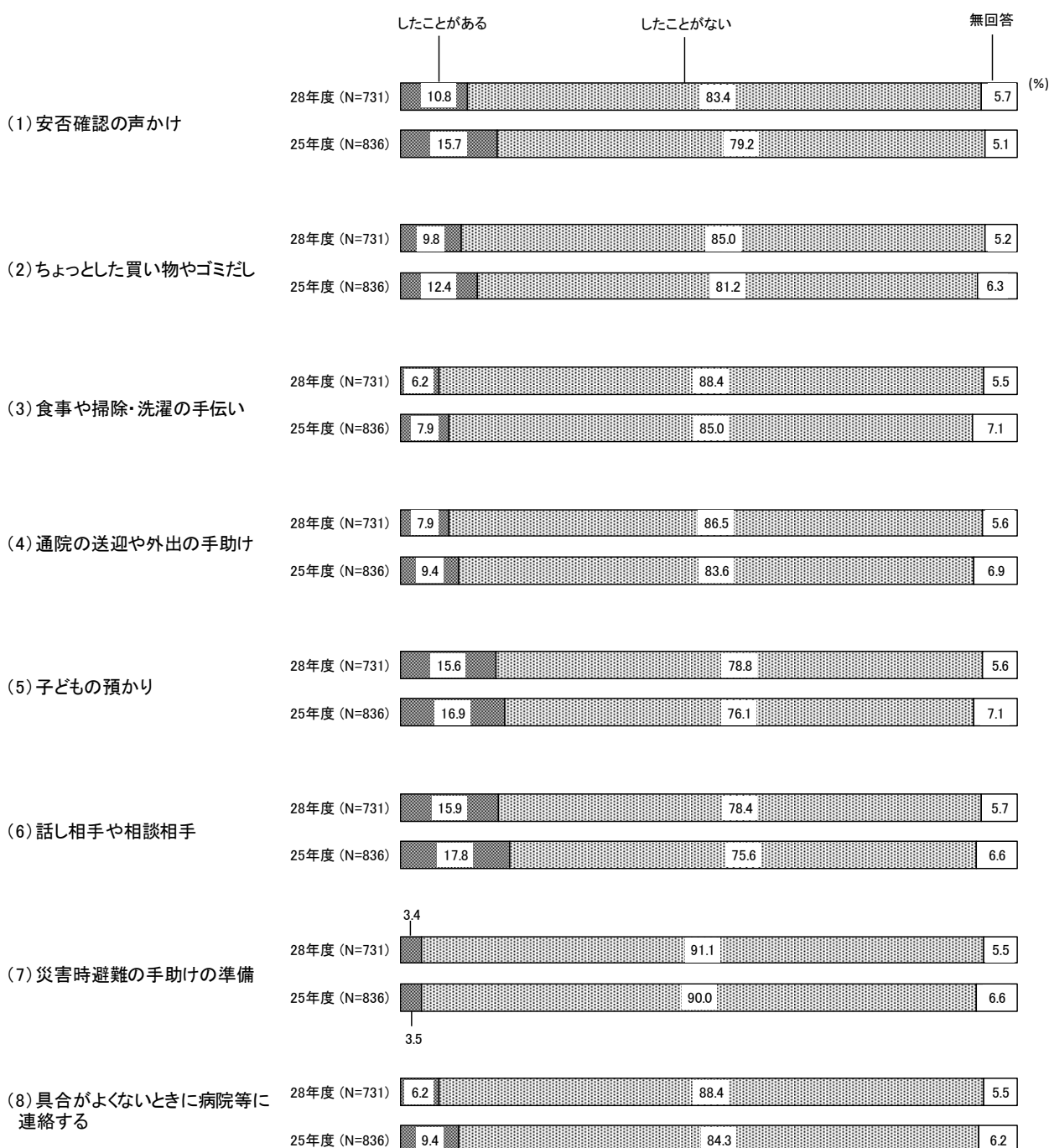
<「してほしい・してほしいと思ったことがある」の割合>

| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) |
|-------------|--------------|----------|------------------|------------|-------------|---------|-----------|--------------|-----------------|
| | | 安否確認の声かけ | ゴミの出しとちょっとした買い物や | 伝食や掃除・洗濯の手 | 助通院の送迎や外出の手 | 子どもの預かり | 話し相手や相談相手 | 準備災害時避難の手助けの | 病具合がよくないときに連絡する |
| 全 | 体 (N=731) | 30.0 | 13.4 | 14.8 | 18.3 | 25.6 | 19.3 | 40.8 | 32.6 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | 32.1 | 12.3 | 15.4 | 17.9 | 28.4 | 20.4 | 48.8 | 38.3 |
| | 西部地域 (n=213) | 27.7 | 12.7 | 14.6 | 18.8 | 22.5 | 17.4 | 41.8 | 30.0 |
| | 南部地域 (n=170) | 32.9 | 14.1 | 15.3 | 18.2 | 21.8 | 19.4 | 33.5 | 30.6 |
| | 北部地域 (n=152) | 27.0 | 12.5 | 11.8 | 15.8 | 30.3 | 17.8 | 38.8 | 30.3 |

② 地域で困っている人への手助けの経験

- 「したことがある」と答えた方の割合はすべて2割未満である。その中で最も高いのは『話し相手や相談相手 (15.9%)』で、『子どもの預かり (15.6%)』、『安否確認の声かけ (10.8%)』が続いている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、すべての項目で「したことがある」の割合は低くなっており、特に、『安否確認の声かけ』は、4.9ポイント低くなっている。

図表 2-29 地域で困っている人への手助けの経験（全体）【経年比較】



Ⅱ アンケート調査の結果

- 「したことがある」の割合を地域別にみると、いずれの地域でも『子どもの預かり』と『話し相手や相談相手』が上位となっている。
- また、南部地域と北部地域では、8項目中6項目が全体を上回っている。

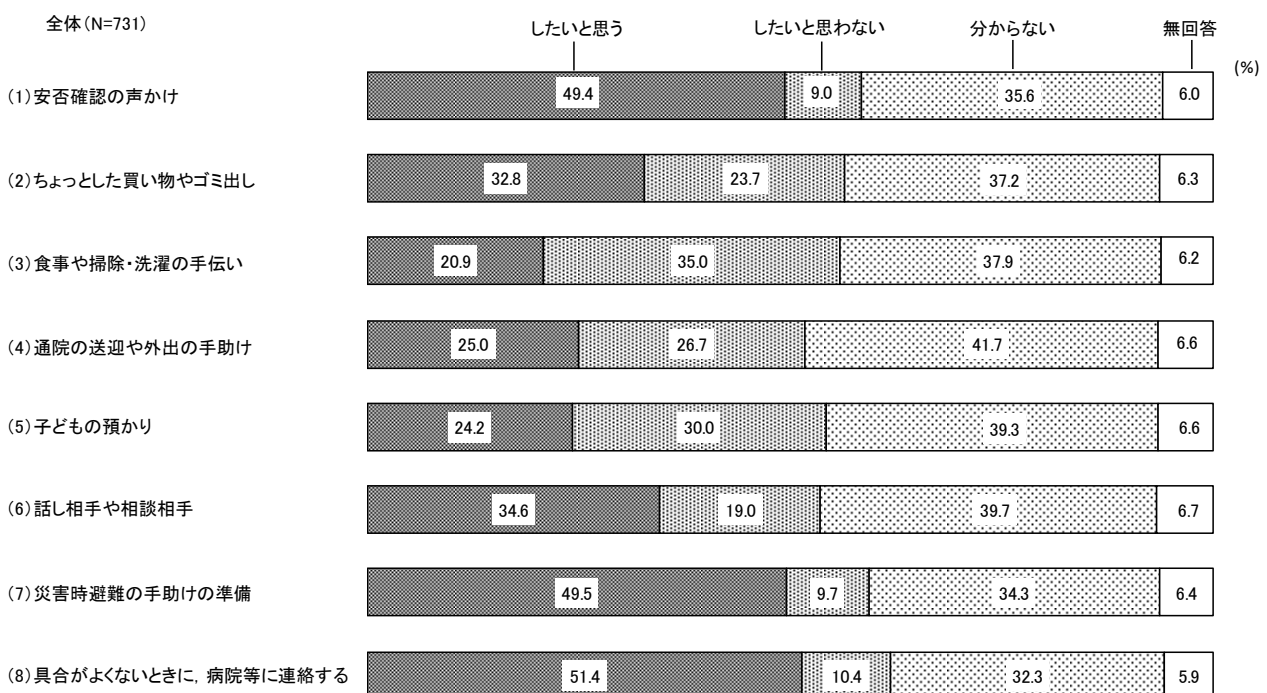
図表 2-30 地域で困っている人への手助けの経験（全体，地域別）＜「したことがある」の割合＞

| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) |
|-----|--------------|----------|----------------|--------------|--------------|---------|-----------|--------------|---------------------|
| | | 安否確認の声かけ | ゴミ出しとちょっとした買い物 | 伝食や掃除・洗濯の手伝い | 通院の送迎や外出の手助け | 子どもの預かり | 話し相手や相談相手 | 災害時避難の手助けの準備 | 具合がよくないときに、病院等に連絡する |
| 全 体 | (N=731) | 10.8 | 9.8 | 6.2 | 7.9 | 15.6 | 15.9 | 3.4 | 6.2 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 8.6 | 6.8 | 2.5 | 8.0 | 17.3 | 11.7 | 3.7 | 4.9 |
| | 西部地域 (n=213) | 11.7 | 10.3 | 5.2 | 6.1 | 13.6 | 13.6 | 2.8 | 6.1 |
| | 南部地域 (n=170) | 10.6 | 11.8 | 7.1 | 10.6 | 14.7 | 17.6 | 3.5 | 6.5 |
| | 北部地域 (n=152) | 13.8 | 8.6 | 9.2 | 9.2 | 17.8 | 19.7 | 3.3 | 6.6 |

③ 今後の手助けの意向

- 『具合がよくないときに、病院等に連絡する』、『災害時避難の手助けの準備』、『安否確認の声かけ』では、「したいと思う」の割合がそれぞれ 51.4%、49.5%、49.4%と高くなっている。
- 一方、『食事や掃除・洗濯の手伝い』、『子どもの預かり』では、「したいと思わない」の割合がそれぞれ 35.0%、30.0%と高くなっている。

図表 2-31 今後の手助けの意向（全体）



- 「したいと思う」の割合を地域別にみると、いずれの地域でも『具合がよくないときに病院等に連絡する』、『災害時避難の手助けの準備』、『安否確認の声かけ』が約5割で高くなっている。
- また、東部地域では8項目中7項目、北部地域ではすべての項目について、全体より割合が高くなっている。

図表 2-32 今後の手助けの意向（全体、地域別）＜「したいと思う」の割合＞

| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) |
|-----|--------------|----------|--------------|-------------|-------------|---------|-----------|-------------|-------------|
| | | 安否確認の声かけ | ゴミよつと出した買い物や | 伝食いや掃除・洗濯の手 | 助通院の送迎や外出の手 | 子どもの預かり | 話し相手や相談相手 | 準災害時避難の手助けの | 病舎等に連絡するときに |
| 全 | 体 (N=731) | 49.4 | 32.8 | 20.9 | 25.0 | 24.2 | 34.6 | 49.5 | 51.4 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 50.6 | 34.0 | 19.1 | 25.3 | 26.5 | 38.3 | 51.9 | 52.5 |
| | 西部地域 (n=213) | 48.8 | 29.6 | 19.7 | 23.9 | 21.1 | 33.3 | 50.7 | 50.2 |
| | 南部地域 (n=170) | 50.0 | 29.4 | 21.8 | 24.7 | 22.4 | 31.2 | 45.3 | 50.0 |
| | 北部地域 (n=152) | 50.7 | 40.1 | 24.3 | 28.3 | 28.9 | 36.8 | 52.0 | 54.6 |

5 地域活動等の状況

(1) 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無，取組状況（問15）

問15 調布市では、さまざまな地域活動・ボランティア活動が行われています。

①次のような地域活動・ボランティア活動について、あなたは興味・関心がありますか。

②現在、次のような地域活動・ボランティア活動にあなたは取り組んでいますか。

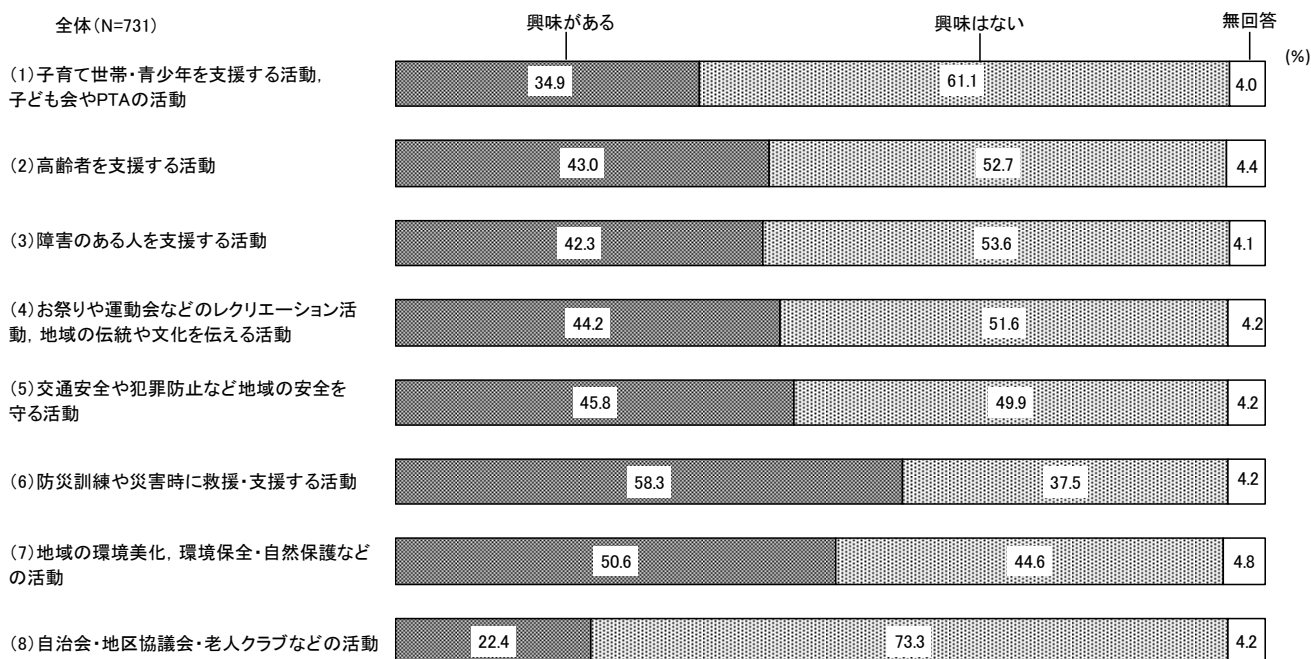
(1)～(8)について、①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

① 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無

- 「興味がある」の割合は、全体では『防災訓練や災害時に救援・支援をする活動(58.3%)』が最も多く、『地域の環境美化，環境保全・自然保護などの活動(50.6%)』、『交通安全や犯罪防止など地域の安全を守る活動(45.8%)』、『お祭りや運動会などのレクリエーション活動，地域の伝統や文化を伝える活動(44.2%)』が続いている。
- 一方、『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動』は「興味がある」が約2割にとどまっている。

II アンケート調査の結果

図表 2-33 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無（全体）



- **地域別**にみると、いずれの地域でも『防災訓練や災害時の救援・支援をする活動』の割合が最も高くなっている。また、南部地域はすべての活動について「興味がある」の割合が全体より低くなっている。

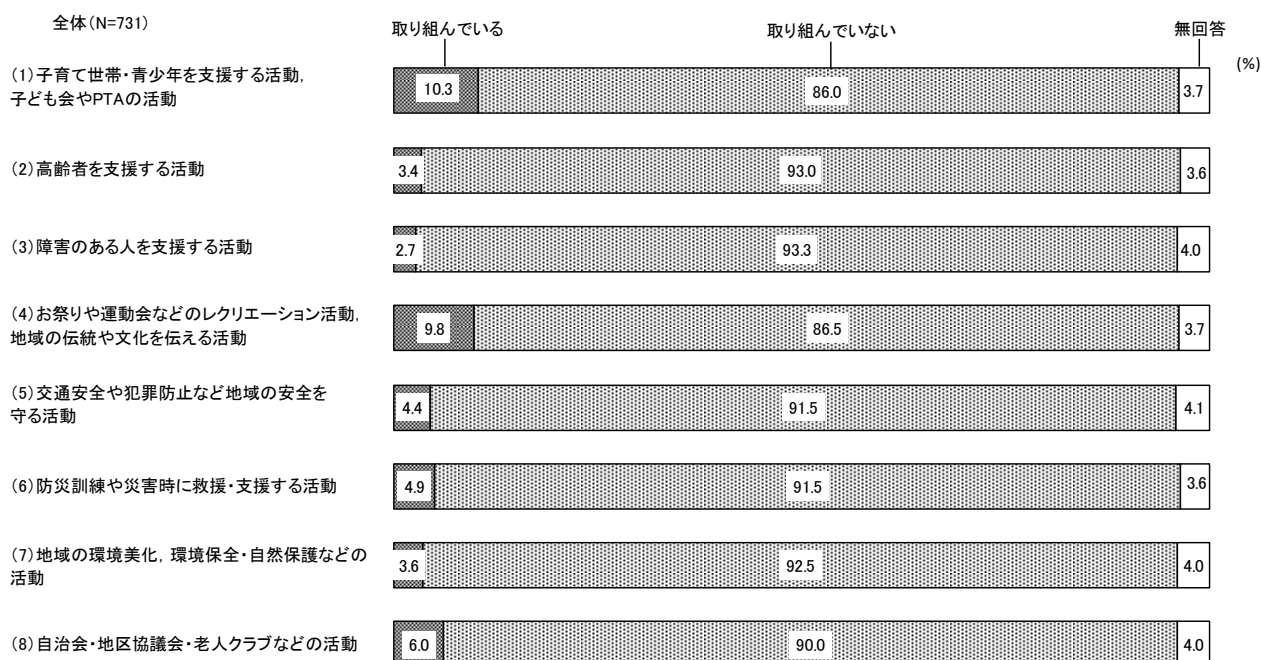
図表 2-34 地域活動・ボランティア活動への興味・関心の有無
(全体、地域別) <「興味がある」の割合>

| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) |
|-------------|--------------|---|--|---|---|--|--|---|---|
| | | 会支子 や援育 Pすて Tる世 A活帯 の動・ 活少 動青 子少 ども年 もを | 高 齢 者 を 支 援 す る 活 動 | る障 活害 動の ある 人 を 支 援 す | を動 レク お祭 を伝 え地 る域 の全 活エ 動や 伝運 統シ やョ 文活 化な の | 動ど交 地通 域安 安や 全犯 を罪 守防 る止 活活 な | 援防 ・災 支訓 援練 をや す災 害時 の救 | 活保地 動全 域の 自環 然境 保美 護化 など 環 境 | 老自 人治 会 ・ 地 区 協 議 会 の 議 活 動 |
| 全 | 体 (N=731) | 34.9 | 43.0 | 42.3 | 44.2 | 45.8 | 58.3 | 50.6 | 22.4 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | 40.1 | 45.1 | 43.2 | 50.0 | 47.5 | 61.7 | 56.8 | 24.7 |
| | 西部地域 (n=213) | 32.9 | 43.2 | 43.2 | 48.8 | 45.5 | 59.2 | 50.7 | 23.5 |
| | 南部地域 (n=170) | 28.2 | 42.4 | 40.0 | 37.1 | 43.5 | 54.1 | 42.9 | 18.2 |
| | 北部地域 (n=152) | 40.8 | 42.1 | 43.4 | 41.4 | 50.7 | 62.5 | 54.6 | 24.3 |

② 地域活動・ボランティア活動の取組状況

- 「取り組んでいる」の割合は、『子育て世帯・青少年を支援する活動、子ども会やPTAの活動 (10.3%)』が最も多く、『お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動 (9.8%)』、『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動 (6.0%)』が続いている。

図表 2-35 地域活動・ボランティア活動の取組状況（全体）



- 「参加している」の割合を地域別にみると、西部地域では、『お祭りや運動会などのレクリエーション活動、地域の伝統や文化を伝える活動』が1割を超えている。
- 北部地域は『子育て世帯・青少年を支援する活動、子ども会やPTAの活動』や『交通安全や犯罪防止など地域の安全を守る活動』の割合が全体より高く、『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動』の割合が全体より低くなっている。
- また、東部地域は『自治会・地区協議会・老人クラブなどの活動』以外のすべての活動で、参加している割合が全体より低くなっている。

図表 2-36 地域活動・ボランティア活動の取組状況
（全体、地域別）＜「参加している」の割合＞

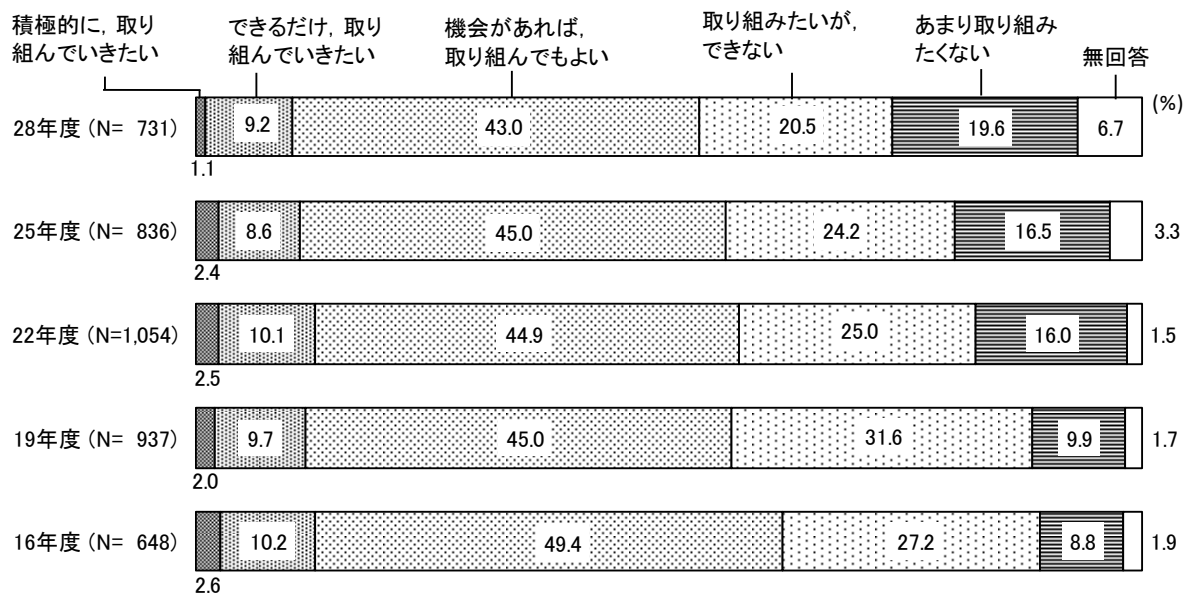
| | | (%) | | | | | | | |
|-------------|--------------|---|--|---|--|--|---|---|--|
| | | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) |
| | | 会支子 や援育 Pすて Tる世 A活帯 の動・青 活動少 動子 少年 を | 高 齢 者 を 支 援 す る 活 動 | る障 害の ある 人 を 支 援 す | を動レ 伝ク祭 え地り る域エ 活のー 動伝シ 文統ヨ 化活の | 動ど交 地通 域安 の全 安や 全犯 を罪 守防 る止 活活 な | 援防 ・災 支訓 援練 をや す災 害活 時 の救 | 活保地 動全域 ・の 自環 然境 保美 護化、 など 環境 | 老自 人治 ク会 ラ・ ブ地 区協 議な の区 議活 動・ |
| 全 | 体 (N=731) | 10.3 | 3.4 | 2.7 | 9.8 | 4.4 | 4.9 | 3.6 | 6.0 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | 6.8 | 1.9 | 1.9 | 6.8 | 3.1 | 3.7 | 3.1 | 7.4 |
| | 西部地域 (n=213) | 10.3 | 2.3 | 2.3 | 13.6 | 4.7 | 5.8 | 4.2 | 7.5 |
| | 南部地域 (n=170) | 10.0 | 4.7 | 4.7 | 8.8 | 3.5 | 4.3 | 2.9 | 5.9 |
| | 北部地域 (n=152) | 15.1 | 4.6 | 2.6 | 9.2 | 7.2 | 5.2 | 4.6 | 2.6 |

(2) 地域活動・ボランティア活動への取組意向 (問 16)

問 16 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。(1つに○)

- 全体では、「機会があれば、取り組んでもよい」が 43.0%で最も多く、「積極的に、取り組んでいきたい (1.1%)」と「できるだけ、取り組んでいきたい (9.2%)」と合わせると、53.3%に取組意向がある。
- 経年で比較すると、地域活動・ボランティア活動等の取組意向は、16 年度から 28 年度まで、「機会があれば、取り組んでもよい」が 4～5 割で最も多くなっている。
- また、「あまり取り組みたくない」の割合は年度が進むほど高くなっており、28 年度は 16 年度と比べて 10.8 ポイント高くなっている。

図表 2-37 地域活動・ボランティア活動への取組意向 (全体)【経年比較】

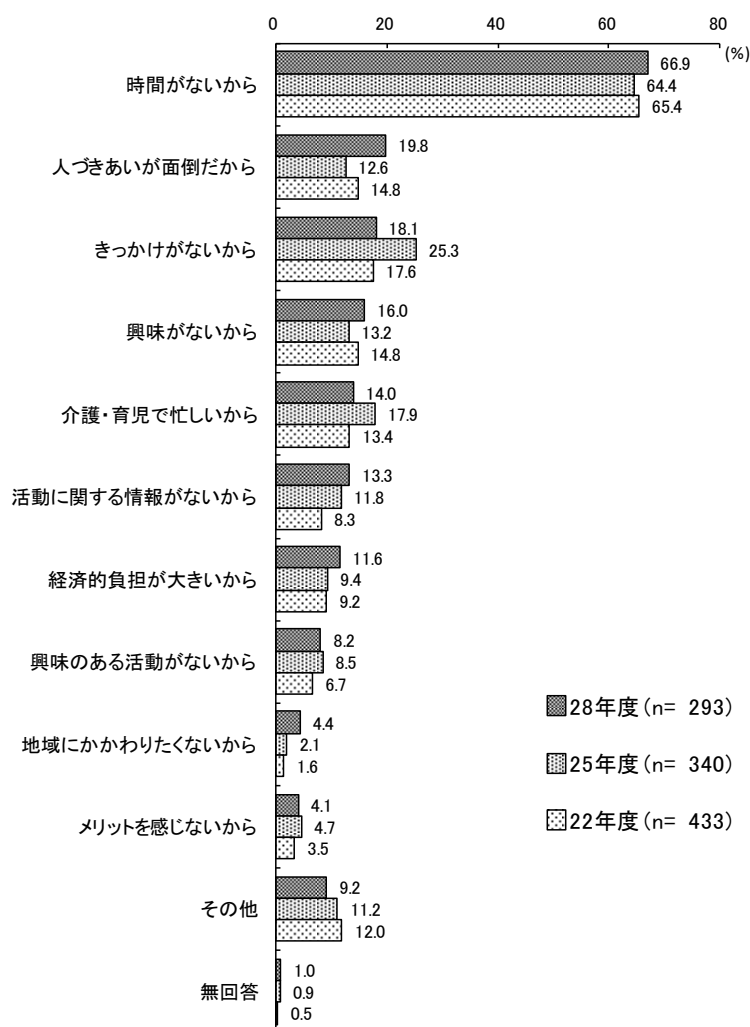


(3) 地域活動・ボランティア活動に取り組まない理由（問16-1）

問16-1 問16で4または5と答えた方におたずねします。
 地域活動・ボランティア活動等に取り組まない理由は何ですか。（いくつでも○）

- 地域活動・ボランティア活動等の取組意向について「取り組みたいが、できない」、「あまり取り組みたくない」と答えた人に、取り組まない理由をたずねたところ、「時間がないから（66.9%）」が最も多く、大幅に高くなっている。次いで「人づきあいが面倒だから（19.8%）」、「きっかけがないから（18.1%）」の順となっている。
- 経年で比較すると、22年度から28年度まで「時間がないから」が6割を超えて最も多くなっている。
- また、22年度・25年度は「きっかけがないから」が2番目に多かったが、28年度は「人づきあいが面倒だから」が2番目に多くなっている。

図表2-38 地域活動・ボランティア活動に取り組まない理由（全体：複数回答）【経年比較】
 <「取り組みたいが、できない」、「あまり取り組みたくない」と回答した人>

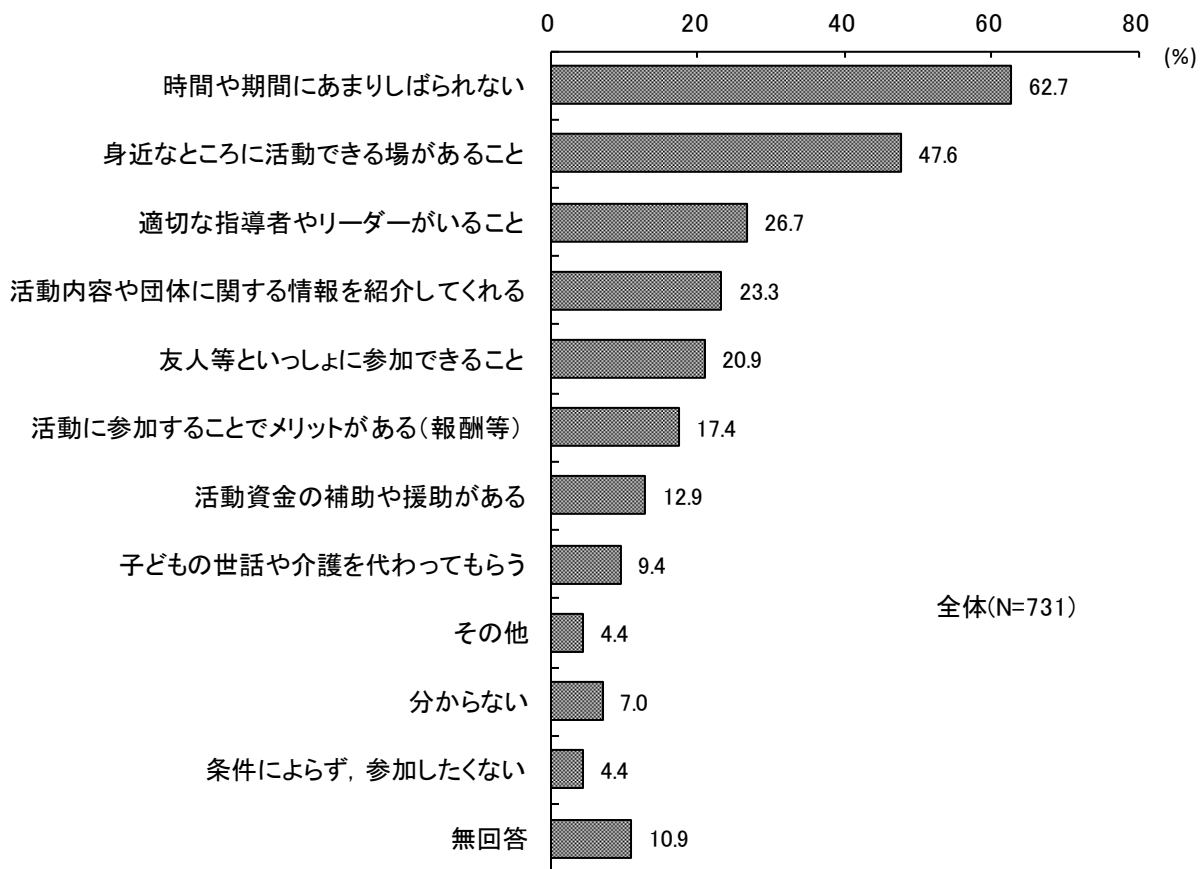


(4) 地域活動・ボランティア活動へ参加しやすい条件 (問 17)

問 17 どのような条件であれば、地域活動・ボランティア活動等に参加・活動しやすいと思いますか。(いくつでも○)

○ 地域活動・ボランティア活動へ参加しやすい条件は、「時間や期間にあまりしばられない (62.7%)」が最も多く、「身近なところに活動できる場があること (47.6%)」、「適切な指導者やリーダーがいること (26.7%)」が続いている。「条件によらず、参加したくない」は 4.4% である。

図表 2-39 地域活動・ボランティア活動へ参加しやすい条件 (全体：複数回答)



(5) 市の福祉ボランティア養成講座の認知度，参加意向（問18）

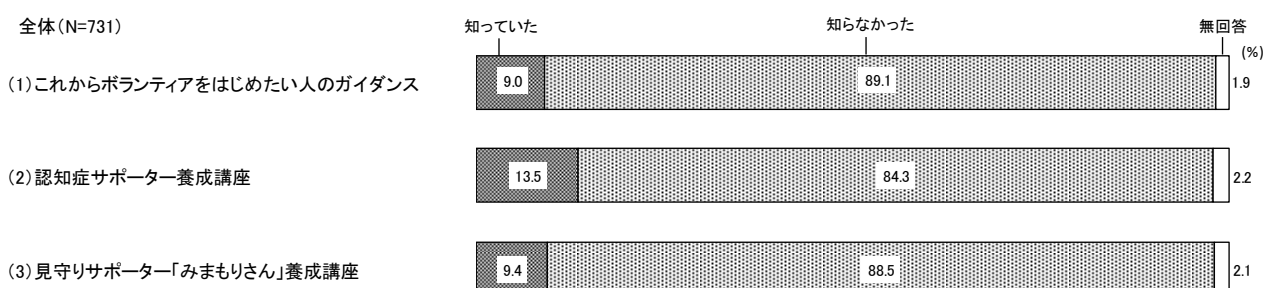
問18 調布市では，次のような福祉ボランティアの養成講座を開催しています。

- ①あなたは，次のような養成講座をご存知でしたか。
 - ②あなたは，今後次のような養成講座に参加したいと思いますか。
- （1）～（3）について，①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

① 市の福祉ボランティア養成講座の認知度

○ 「知っていた」と回答したのは，すべての項目で1割前後であり，そのうち最も多いのは『認知症サポーター養成講座（13.5%）』である。

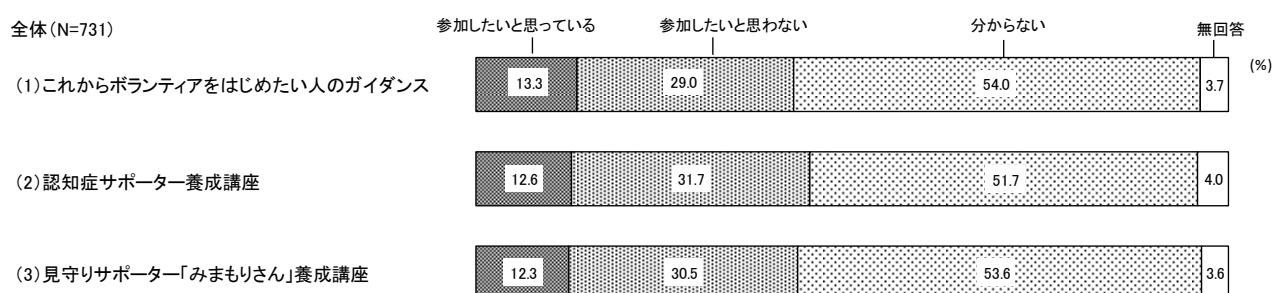
図表 2-40 市の福祉ボランティア養成講座の認知度（全体）



② 市の福祉ボランティア養成講座への参加意向

○ 「参加したいと思っている」と回答したのはいずれの項目でも1割強である。
 ○ 一方，「参加したいと思わない」はいずれの項目でも約3割となっている。

図表 2-41 市の福祉ボランティア養成講座への参加意向（全体）



(6) 身近な拠点の利用状況 (問 19)

問 19 これまであなたが身近な活動拠点として利用している施設は、次のうちどこですか。
(いくつでも○)

- 全体では、「図書館」が約4割で最も多く、次いで「文化会館たづくり」が2割台、「小学校・中学校」が1割台の順になっている。一方で、「特にない」は約4割となっている。
- 性・年代別にみると、女性・18～29歳では「図書館」が5割、男性・18～29歳では「文化会館たづくり」が3割台、「個人宅」が約1割、女性・50～64歳では「地域福祉センター」が1割台であり、全体と比べ高くなっている。また、男性・18～29歳と男性・50～64歳では「特にない」が最も多くなっている。
- 地域別にみると、東部地域は「特にない (45.7%)」が全体と比べて5.8ポイント高くなっている。

図表 2-42 身近な拠点の利用状況 (全体, 性・年代別, 地域別 : 複数回答)

| | | | 文化会館たづくり | 地域福祉センター | 総合福祉センター | 市民活動支援センター | ふれあいの家 | 公民館 | 図書館 |
|-------------|--------------|----------------|----------|----------|----------|------------|--------|-----|------|
| 全 体 (N=731) | | | 26.3 | 6.8 | 2.2 | 1.5 | 4.5 | 3.6 | 40.9 |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 36.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 30.3 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 25.7 | 3.4 | 2.0 | 1.4 | 3.4 | 3.4 | 44.6 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 18.9 | 3.8 | 1.9 | 0.0 | 0.9 | 0.9 | 29.2 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 26.8 | 3.6 | 0.0 | 3.6 | 0.0 | 3.6 | 50.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 26.6 | 7.8 | 2.3 | 2.8 | 8.7 | 5.0 | 44.5 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 30.8 | 14.1 | 3.8 | 0.6 | 4.5 | 4.5 | 39.7 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | | 19.1 | 5.6 | 0.0 | 1.9 | 3.7 | 3.1 | 34.0 |
| | 西部地域 (n=213) | | 31.5 | 4.2 | 2.8 | 0.0 | 4.7 | 2.8 | 39.0 |
| | 南部地域 (n=170) | | 32.4 | 5.3 | 4.7 | 3.5 | 6.5 | 4.1 | 48.2 |
| | 北部地域 (n=152) | | 19.1 | 11.2 | 1.3 | 1.3 | 3.9 | 3.3 | 42.8 |

| | | | 小学校・中学校 | 民間の施設 | 個人宅 | その他 | 特にない | 無回答 |
|-------------|--------------|----------------|---------|-------|------|-----|------|-----|
| 全 体 (N=731) | | | 15.2 | 1.6 | 4.1 | 3.8 | 39.9 | 1.6 |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 6.1 | 6.1 | 12.1 | 9.1 | 39.4 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 18.2 | 0.0 | 4.1 | 3.4 | 42.6 | 1.4 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 13.2 | 0.9 | 0.9 | 1.9 | 47.2 | 4.7 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 8.9 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 44.6 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 20.6 | 2.8 | 5.5 | 5.0 | 35.8 | 0.9 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 10.9 | 1.3 | 3.8 | 2.6 | 36.5 | 0.6 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | | 14.8 | 4.3 | 5.6 | 3.1 | 45.7 | 0.0 |
| | 西部地域 (n=213) | | 12.7 | 0.9 | 2.8 | 4.2 | 41.8 | 1.9 |
| | 南部地域 (n=170) | | 18.2 | 0.0 | 4.7 | 2.9 | 35.9 | 1.2 |
| | 北部地域 (n=152) | | 15.8 | 2.0 | 3.9 | 5.3 | 39.5 | 2.6 |

(7) 拠点の機能に関する希望 (問 20)

問 20 あなたが身近な活動拠点に求める機能は、どのようなものですか。(3つまで○)

- 全体では、「好きなときに自由に勉強や休憩等に使えるフリースペース (37.8%)」が最も多く、「困ったことを何でも気軽に相談できる総合相談窓口 (35.6%)」が続いている。
- 性・年代別にみると、「好きなときに自由に勉強や休憩等に使えるフリースペース」が、男性・18～29歳では5割台後半、女性・18～29歳では6割台と、全体より大幅に高くなっている。また、女性では年代が上がるほど「困ったことを何でも気軽に相談できる総合相談窓口」の割合が高くなっている。
- 地域別にみると、南部地域と北部地域では「困ったことを何でも気軽に相談できる総合相談窓口」が全体と比べて4ポイントほど高く、約4割となっている。

図表 2-43 拠点の機能に関する希望 (全体, 性・年代別, 地域別 : 複数回答 (3つまで))

| | | | 談 困 窓 づ 口 相 談 で き る 何 で も 相 気 | る 団 集 体 会 活 室 動 等 の 借 り ら れ | リ 強 好 ー や き ス 休 な ペ 息 と ー 等 き ス に 自 使 由 え る る に フ 勉 | ま し い り や っ 場 べ り 等 誰 が で き る た お | 約 な 掲 ・ 示 発 板 信 域 情 報 誌 の 発 集 行 | サ 出 ク ポ し ス ー な ー ト ど、 ロ 、 ッ 市 カ 民 ー 活 活 動 の の し |
|-------|--------------|----------------|--|--|--|---|---|---|
| 全 体 | (N=731) | 35.6 | 15.2 | 37.8 | 7.4 | 18.7 | 13.3 | |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 24.2 | 12.1 | 57.6 | 15.2 | 9.1 | 33.3 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 39.9 | 12.8 | 37.2 | 4.7 | 13.5 | 9.5 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 34.9 | 14.2 | 28.3 | 4.7 | 23.6 | 10.4 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 23.2 | 12.5 | 64.3 | 7.1 | 23.2 | 26.8 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 35.3 | 18.3 | 38.1 | 8.3 | 20.6 | 12.8 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 41.0 | 15.4 | 30.8 | 9.0 | 19.2 | 10.9 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 30.9 | 13.6 | 39.5 | 7.4 | 17.9 | 13.6 | |
| | 西部地域 (n=213) | 33.3 | 16.0 | 39.0 | 6.1 | 19.2 | 13.6 | |
| | 南部地域 (n=170) | 39.4 | 15.9 | 41.2 | 6.5 | 17.1 | 15.9 | |
| | 北部地域 (n=152) | 39.5 | 15.1 | 31.6 | 8.6 | 21.7 | 11.8 | |

| | | | 活 展 動 示 の ス 発 ベ 表 ー の ス 場 等 の 市 民 | そ の 他 | 特 に な い | 分 か ら な い | 無 回 答 |
|-------|--------------|----------------|---|-------------|------------------|-----------------------|-------------|
| 全 体 | (N=731) | 5.3 | 3.7 | 15.7 | 11.5 | 2.1 | |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 (n= 33) | 0.0 | 6.1 | 24.2 | 6.1 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 3.4 | 5.4 | 16.2 | 11.5 | 1.4 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 2.8 | 0.9 | 21.7 | 13.2 | 3.8 |
| | 女性 | 18～29歳 (n= 56) | 1.8 | 5.4 | 17.9 | 3.6 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 6.9 | 4.1 | 11.5 | 13.3 | 1.8 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 8.3 | 2.6 | 14.1 | 12.2 | 1.9 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 6.2 | 3.1 | 13.6 | 12.3 | 1.9 | |
| | 西部地域 (n=213) | 6.6 | 3.8 | 17.8 | 9.9 | 2.8 | |
| | 南部地域 (n=170) | 4.7 | 2.9 | 14.1 | 12.4 | 0.6 | |
| | 北部地域 (n=152) | 2.6 | 5.9 | 14.5 | 13.2 | 2.0 | |

6 住民参加の地域づくり

(1) 地域のつながりを感じる程度（問 21）

問 21 あなたがお住まいの地域には、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）はあると感じますか。（1つに○）

- 全体では、《感じない》※が 54.7%であり、5割を超えている。
- 性・年代別にみると、《感じる》の割合は、男性では 30～49 歳が最も高いが、女性は年代が上がるほど高くなっている。
- 地域別にみると、《感じる》は東部地域が全体と比べて 5.5 ポイント高く、4 地域で最も高くなっている。一方、西部地域は全体と比べて 6.3 ポイント低く、4 地域で最も低くなっている。

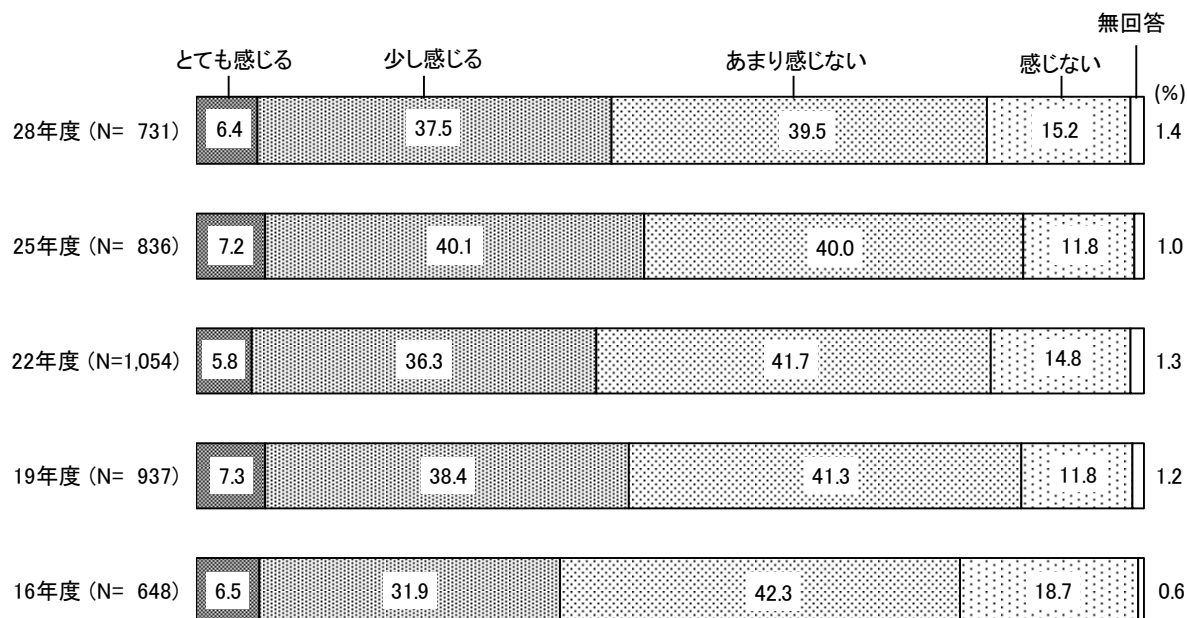
図表 2-44 地域のつながりを感じる程度（全体、性・年代別、地域別）

| | | | るとても感じる | 少し感じる | なあまり感じない | 感じない | 無回答 | |
|-------|------|---------|---------|-------|----------|------|------|-----|
| 全 体 | | (N=731) | 6.4 | 37.5 | 39.5 | 15.2 | 1.4 | |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 | (n= 33) | 6.1 | 27.3 | 51.5 | 15.2 | 0.0 |
| | | 30～49歳 | (n=148) | 4.1 | 41.2 | 39.9 | 13.5 | 1.4 |
| | | 50～64歳 | (n=106) | 2.8 | 36.8 | 38.7 | 19.8 | 1.9 |
| | 女性 | 18～29歳 | (n= 56) | 8.9 | 32.1 | 42.9 | 14.3 | 1.8 |
| | | 30～49歳 | (n=218) | 7.3 | 36.7 | 37.6 | 17.0 | 1.4 |
| | | 50～64歳 | (n=156) | 9.6 | 40.4 | 38.5 | 10.9 | 0.6 |
| 地域別 | 東部地域 | (n=162) | 9.3 | 40.1 | 36.4 | 14.2 | 0.0 | |
| | 西部地域 | (n=213) | 3.8 | 33.8 | 47.4 | 13.1 | 1.9 | |
| | 南部地域 | (n=170) | 5.3 | 40.0 | 36.5 | 17.1 | 1.2 | |
| | 北部地域 | (n=152) | 8.6 | 35.5 | 36.2 | 17.8 | 2.0 | |

※《感じる》：「とても感じる」，「少し感じる」の合計
 《感じない》：「あまり感じない」，「感じない」の合計

- 経年で比較すると、22年度と比べて25年度は《感じる》の割合が増加したが、28年度には再び減少している。

図表 2-45 地域のつながりを感じる程度（全体）【経年比較】



(2) 地域のつながりの必要性 (問 22)

問 22 あなたは暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。（1つに○）

- 全体では、《必要あり》*が約9割となっている。
- 年代別にみると、10歳代の20.0%、20歳代の16.2%が《必要なし》と答えており、全体と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、東部地域は《必要なし》が11.7%で、1割を越えている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしは《必要なし》が19.5%で、全体に比べて9.8ポイント高くなっている。

II アンケート調査の結果

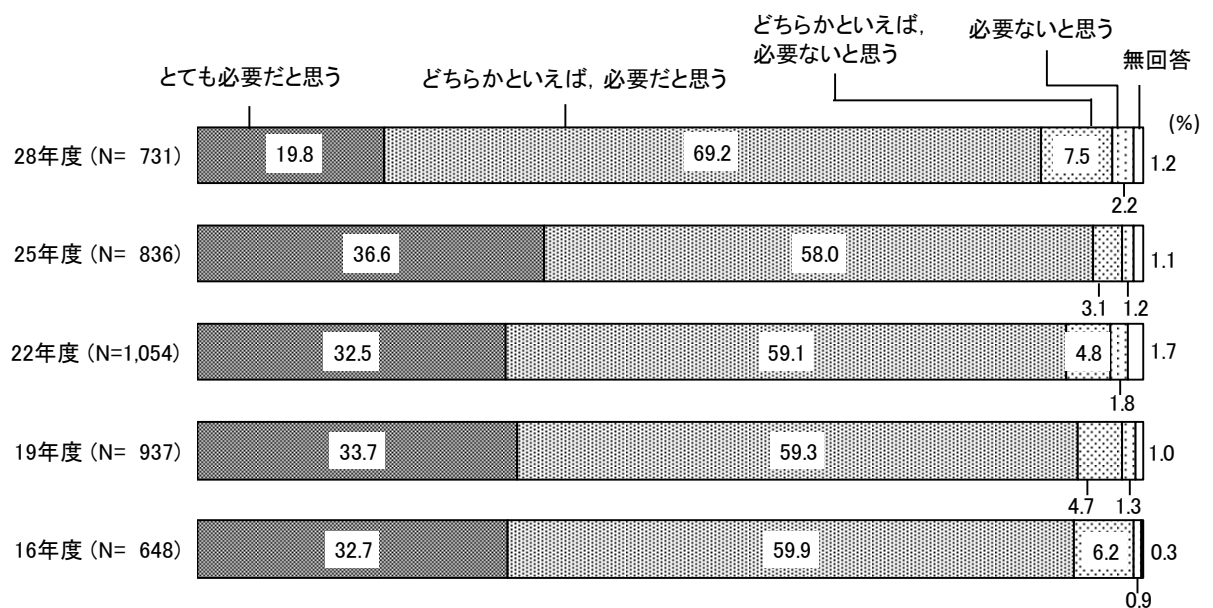
図表 2-46 地域のつながりの必要性（全体，年代別，地域別，家族構成別）

| | | | 思 と う も 必 要 だ と | う ば ど ち ら か と い え ば 、 必 要 だ と い え | 思 ば ど ち ら か と い え ば 、 必 要 な い と い え | 必 要 な い と 思 う | 無 回 答 |
|-----------------------|----------------|--|--------------------------------------|---|--|---------------------------------|-------------|
| 全 体 (N=731) | | | 19.8 | 69.2 | 7.5 | 2.2 | 1.2 |
| 年 代 別 | 10歳代 (n= 15) | | 13.3 | 66.7 | 20.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 20歳代 (n= 74) | | 23.0 | 60.8 | 13.5 | 2.7 | 0.0 |
| | 30歳代 (n=158) | | 16.5 | 73.4 | 8.9 | 1.3 | 0.0 |
| | 40歳代 (n=208) | | 20.7 | 70.7 | 4.3 | 1.9 | 2.4 |
| | 50歳代 (n=180) | | 20.6 | 68.9 | 7.2 | 2.8 | 0.6 |
| | 60歳代 (n= 83) | | 20.5 | 69.9 | 4.8 | 3.6 | 1.2 |
| 地 域 別 | 東部地域 (n=162) | | 16.7 | 71.0 | 10.5 | 1.2 | 0.6 |
| | 西部地域 (n=213) | | 18.8 | 70.0 | 7.5 | 2.3 | 1.4 |
| | 南部地域 (n=170) | | 21.2 | 69.4 | 5.9 | 2.9 | 0.6 |
| | 北部地域 (n=152) | | 23.7 | 68.4 | 4.6 | 2.0 | 1.3 |
| 家 族 構 成 別 | ひとり暮らし (n= 92) | | 12.0 | 66.3 | 14.1 | 5.4 | 2.2 |
| | その他 (n=629) | | 21.1 | 69.5 | 6.7 | 1.7 | 1.0 |

※ 《必要あり》： 「とても必要だと思う」、「どちらかといえば、必要だと思う」の合計
 《必要なし》： 「どちらかといえば、必要ないと思う」、「必要ないと思う」の合計

- 経年で比較すると、《必要あり》の割合は、25年度から5.6ポイント低くなっており、5回の調査で最も低くなっている。
- また、28年度の《必要なし》の割合は、5回の調査で最も高くなっている。

図表 2-47 地域のつながりの必要性（全体）【経年比較】



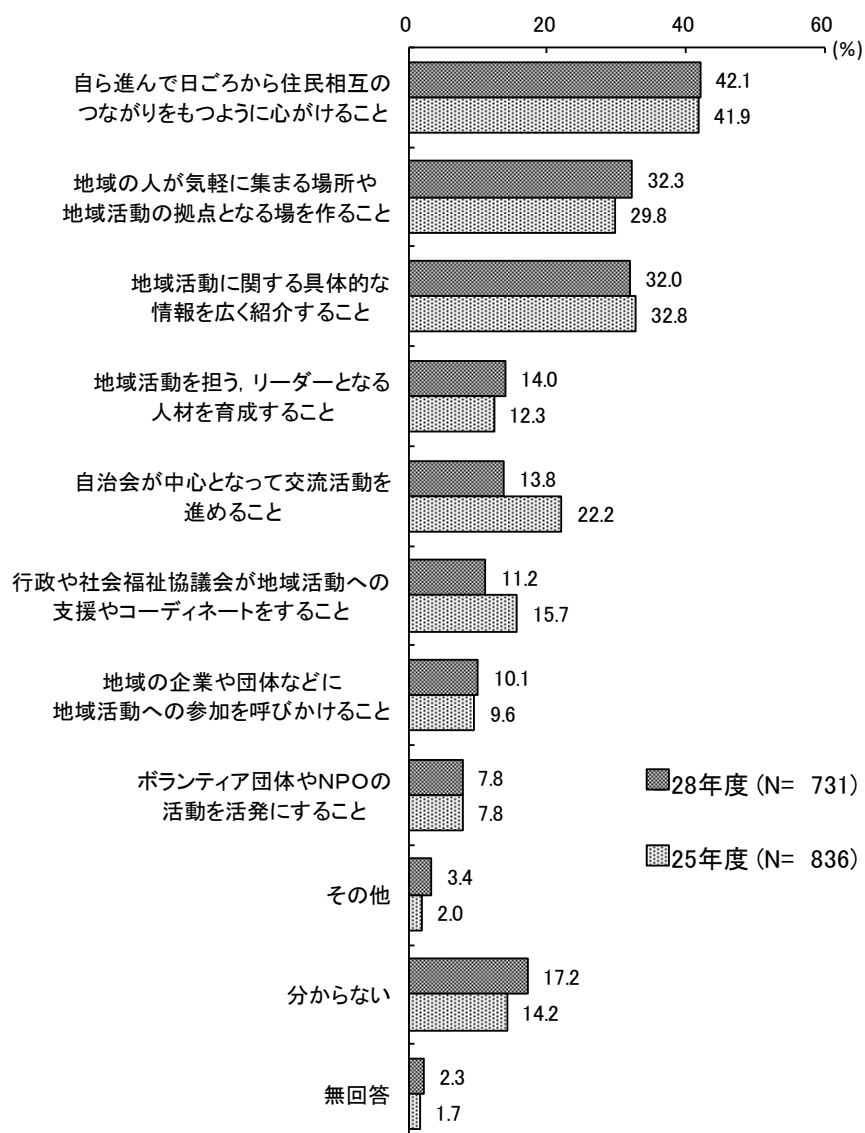
(3) 地域住民の協力関係を築くために必要なこと (問23)

問23 地域で住民の協力関係を築くためにはどのようなことが必要だと思いますか。

(3つまで○)

- 全体では、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること (42.1%)」が最も多く、「地域の人が気軽に集まる場所や地域活動の拠点となる場を作ること (32.3%)」、「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること (32.0%)」が続いている。
- 経年で比較すると、28年度は、25年度と同様に「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつように心がけること」が最も多く、約4割となっている。
- また、28年度の「自治会が中心となって交流活動を進めること」は13.8%で、25年度と比べて8.4ポイント低くなっている。

図表 2-48 地域住民の協力関係を築くために必要なこと (全体：複数回答 (3つまで)) 【経年比較】

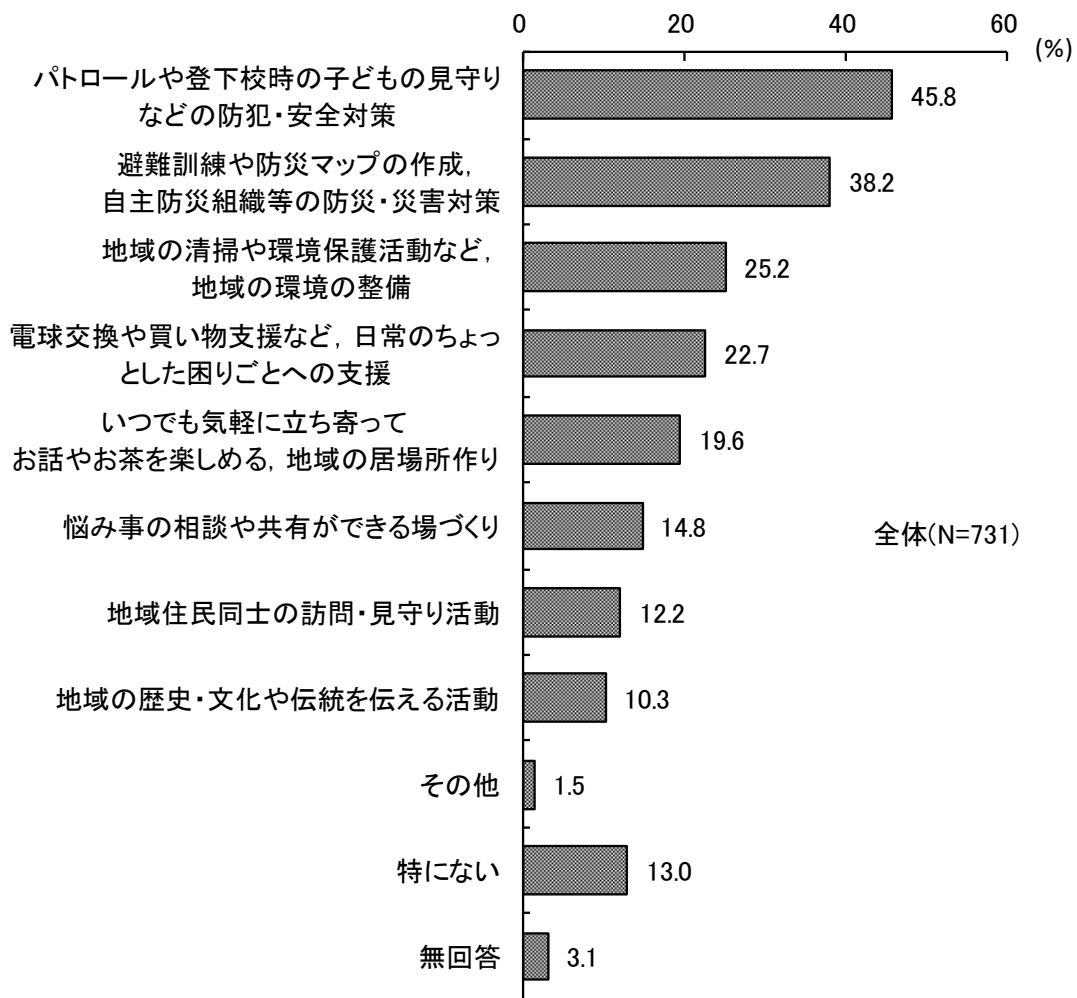


(4) 地域で支え合っているとよいこと (問 24)

問 24 あなたが、地域で支え合っているとよいと思うことは、次のうちどのようなことですか。(3つまで○)

○ 地域で支え合っているとよいことは、「パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの防犯・安全対策 (45.8%)」が最も多く、「避難訓練や防災マップの作成、自主防災組織等の防災・災害対策 (38.2%)」、「地域の清掃や環境保護活動など、地域の環境の整備 (25.2%)」が続いている。また、「特にない」は 13.0%である。

図表 2-49 地域で支え合っているとよいこと (全体：複数回答 (3つまで))



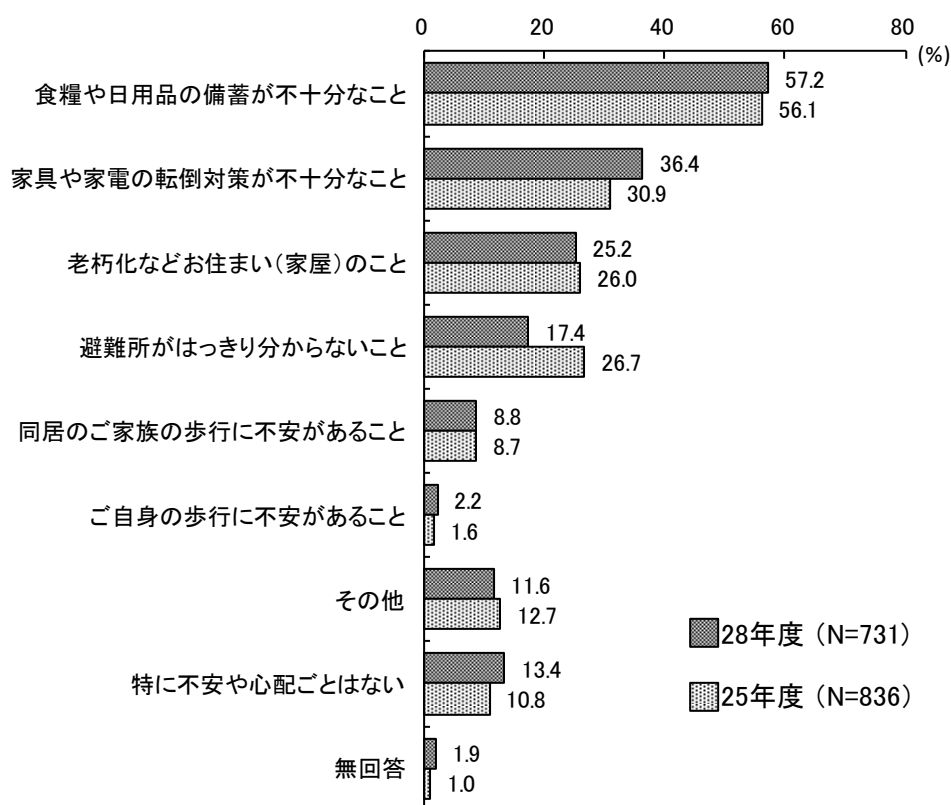
7 災害時の対応

(1) 災害時についての不安や心配ごと (問 25)

問 25 あなたは、災害時についての不安や心配ごとがありますか。(いくつでも○)

- 全体では、「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと (57.2%)」が最も多く、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと (36.4%)」、「老朽化などお住まい(家屋)のこと (25.2%)」が続いている。
- 経年で比較すると、28年度は、25年度と同様に「食糧や日用品の備蓄が不十分なこと」が5割を超えて最も多く、「家具や家電の転倒対策が不十分なこと」が続いている。
- また、28年度の「避難所がはっきり分からないこと」は17.4%で、25年度に比べて9.3ポイント低くなっている。

図表 2-50 災害時についての不安や心配ごと (全体：複数回答)【経年比較】



(2) 災害時に向けて普段から地域のためにしていること、できること (問 26)

問 26 災害が起きたときに向けて、地域での取組が求められています。

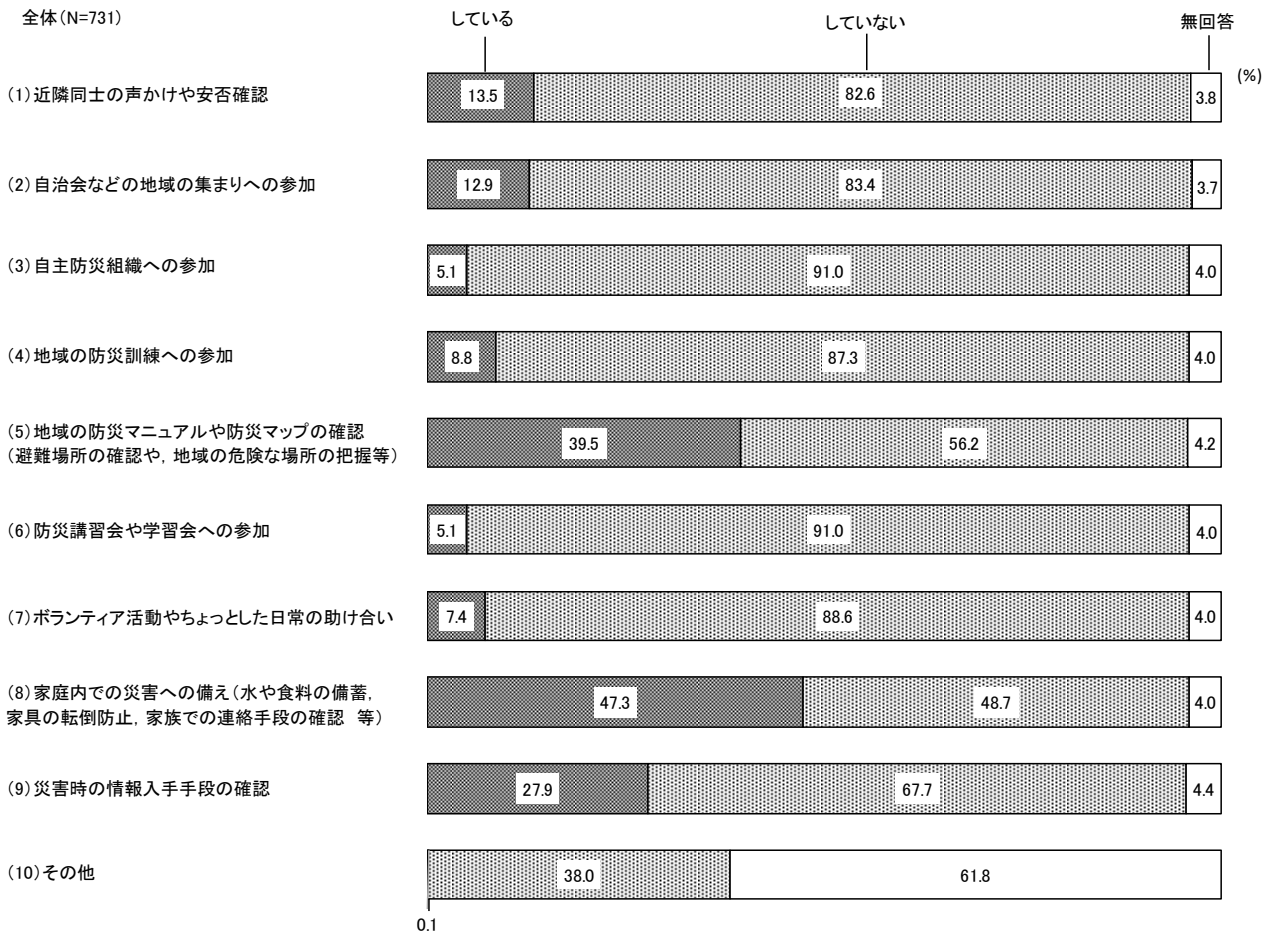
- ①あなたが普段から地域のためにしていることはありますか。
- ②今後できることはありますか。

(1) ~ (10) について、①と②のそれぞれ1つに○をつけてください。

① 災害時に向けて普段から地域のためにしていること

○ 『家庭内での災害への備え (水や食料の備蓄, 家具の転倒防止, 家族での連絡手段の確認等) (47.3%)』が最も多く、『地域の防災マニュアルや防災マップの確認 (避難場所の確認や, 地域の危険な場所の把握等) (39.5%)』、『災害時の情報入手手段の確認 (27.9%)』が続いている。

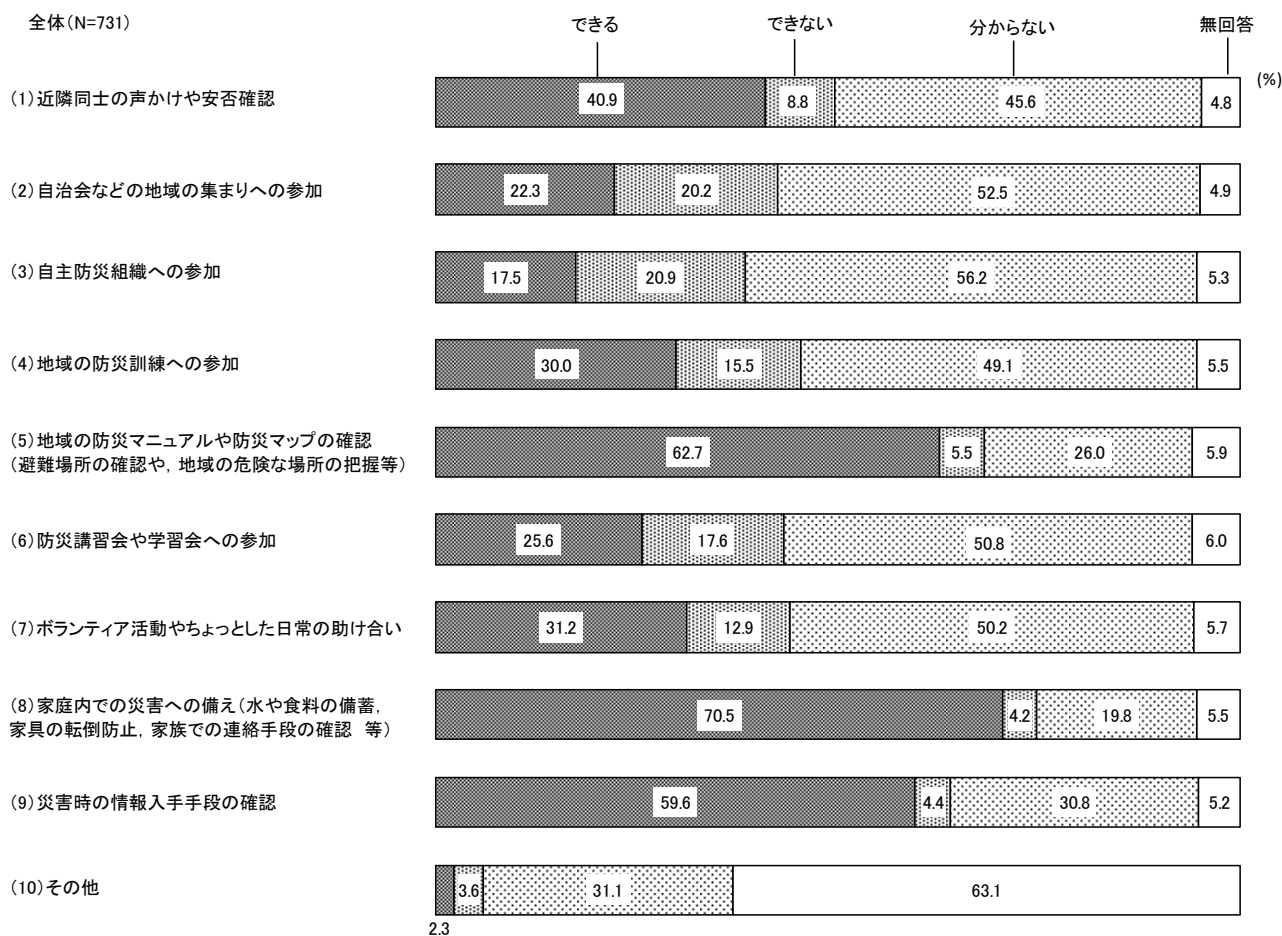
図表 2-51 災害時に向けて普段から地域のためにしていること (全体)



② 災害時に向けて今後できること

- 『家庭内での災害への備え（水や食料の備蓄，家具の転倒防止，家族での連絡手段の確認等）（70.5%）』が最も多く、『地域の防災マニュアルや防災マップの確認（避難場所の確認や，地域の危険な場所の把握等）（62.7%）』、『災害時の情報入手手段の確認（59.6%）』が続いている。

図表 2-52 災害時に向けて今後できること（全体）



8 地域社会に対する考え方

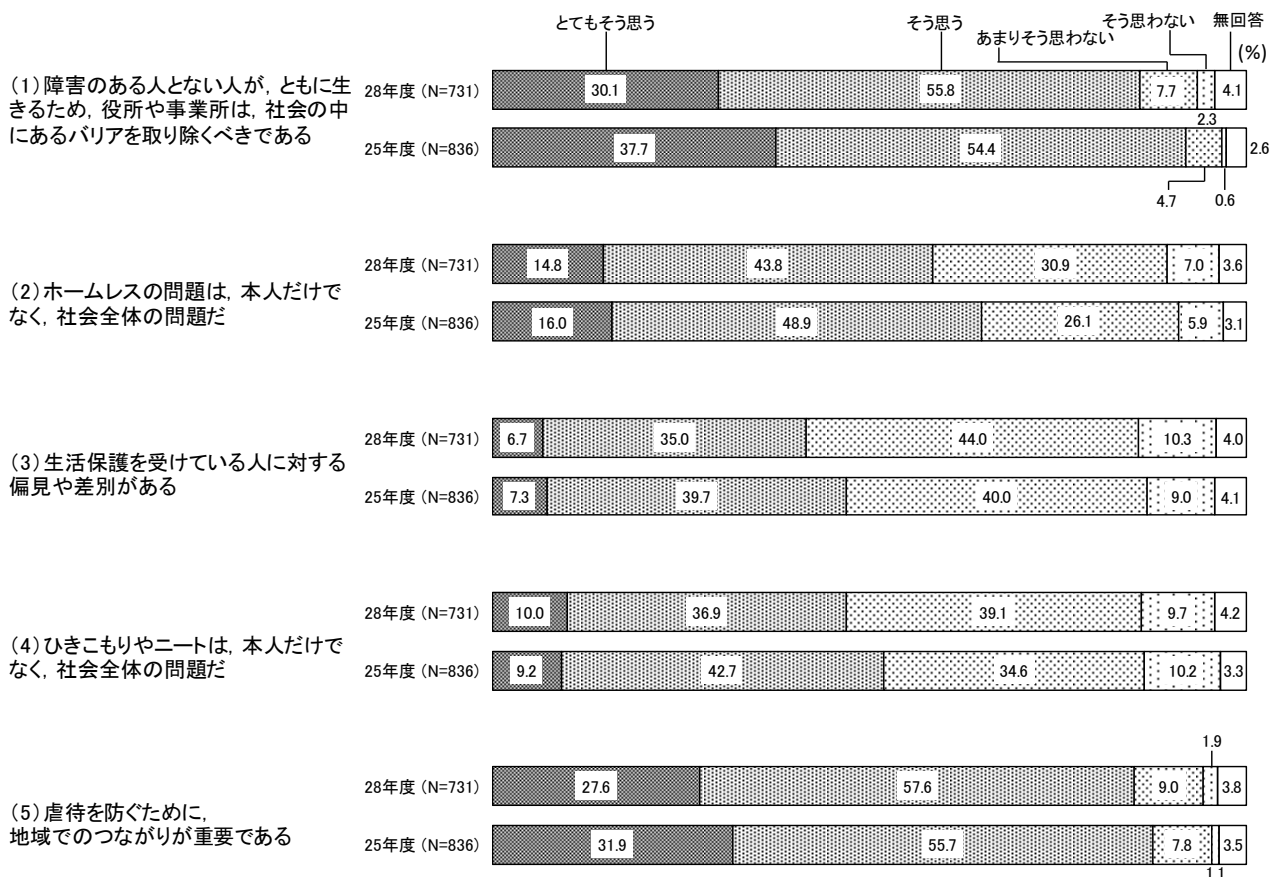
(1) ソーシャル・インクルージョンに関する意識 (問 27)

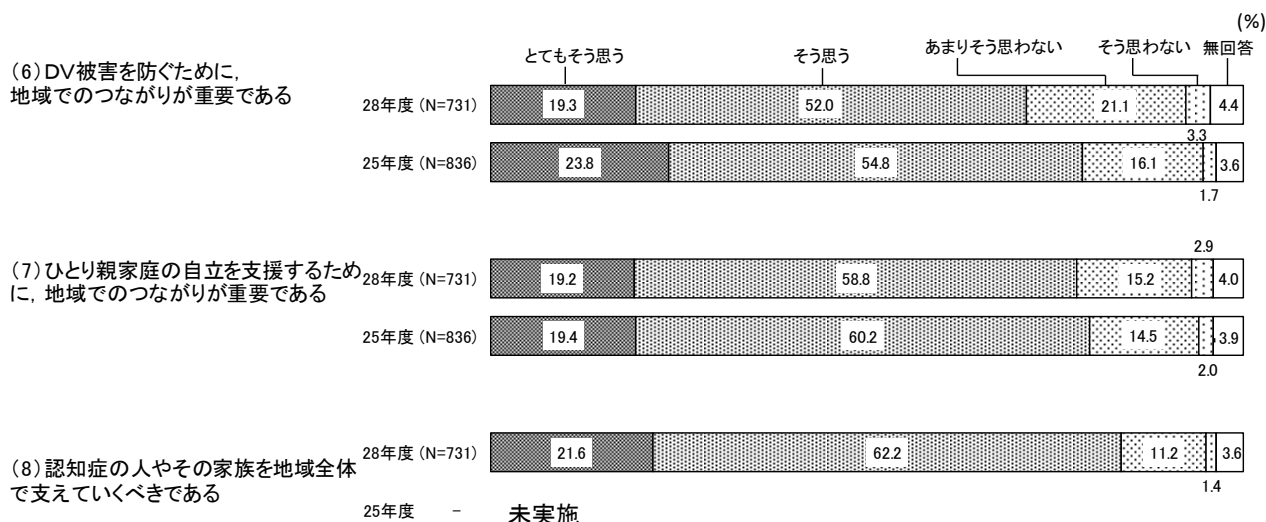
問 27 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。

(1)～(8)について、それぞれ1つに○をつけてください。

- ソーシャル・インクルージョンに関する意識についてたずねた。
- 『障害のある人とない人が、ともに生きるため、役所や事業所は、社会の中にあるバリアを取り除くべきである』、『虐待を防ぐために、地域でのつながりが重要である』で、《そう思う》※がそれぞれ85.9%、85.2%と高くなっている。
- 一方、『ひきこもりやニートは、本人だけでなく、社会全体の問題だ』、『ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題だ』では、《そう思わない》※がそれぞれ48.8%、37.9%と高くなっている。
- また、『生活保護を受けている人に対する偏見や差別がある』に《そう思う》と答えた割合は41.7%と、4割を超えている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度に比べ、すべての項目で《そう思う》が低くなっている。

図表 2-53 ソーシャル・インクルージョンに関する意識 (全体)【経年比較】





(2) 地域で福祉サービスの利用に結びついておらず困っている人の有無 (問 28)

問 28 あなたを含め、地域において支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスの利用に結びついていない人がいますか。(1つに○)

- 福祉サービスの利用に結びついていない人の有無は、全体では「いる」が4.0%である。
- 地域別にみると、「いる」の割合は、西部地域で最も高く、5.2%となっている。

図表 2-54 地域で福祉サービスの利用に結びついておらず困っている人の有無 (全体, 地域別)

| | | (%) | | | |
|-----|--------------|-----|------|-------|-----|
| | | いる | いない | 分からない | 無回答 |
| 全 | 体 (N=731) | 4.0 | 21.6 | 69.2 | 5.2 |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 4.9 | 17.9 | 72.8 | 4.3 |
| | 西部地域 (n=213) | 5.2 | 19.7 | 70.4 | 4.7 |
| | 南部地域 (n=170) | 2.9 | 24.1 | 68.8 | 4.1 |
| | 北部地域 (n=152) | 3.3 | 24.3 | 67.1 | 5.3 |

(3) 福祉サービスに結びついていない事例の具体的な内容 (問 28-1)

問 28-1 福祉サービスの利用に結びついていない人は、どのような人ですか。また、どのようなことでお困りですか。下の欄に具体的にご記入ください。

- 支援が必要であるにもかかわらず、福祉サービスに結びついていない人が「いる」と回答した人に、具体的な状況を自由記述形式でたずねたところ、全体で28件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

(保育園に入れない)

- ・保育園に入れません。認可保育園の一時預かりも条件が厳しく、利用しづらいです。(男性, 30 歳代)
- ・子どもが早生まれのため、認可保育園の0歳クラスに申し込めない。0歳クラスの早生まれ受け入れは3人程度(各園1人ずつ)しか枠がなく絶望的。生まれ月で申込みさえ出来ないのはおかしい。認可保育園の1歳クラスはほぼ0歳クラスの持ち上がりで埋まってしまい、新規入園が難しい。(女性, 40 歳代)

(独居の高齢者)

- ・90歳を越えておじいさんが1人暮らしなのですが、本人は大丈夫と思って自転車やバイクに乗っているが、たまに町で、ふらついていたのか、周りの人に休む様に促されている姿を見かけました。さすがに危ないと思いますが、その姿を見ると福祉サービスの利用はしていないのだろうと思います。(女性, 30 歳代)

(障害)

- ・自分自身、持病が生まれつきあり、障害認定に関わるものでないため、H23から働けなくなったが、何の福祉も受けられない。目も不自由で市役所に自力で相談に行くのも困難。こちらから出向かなければいけないという方法では相談もできない。せめてメールで相談できる窓口がほしい。(女性, 40 歳代, 抜粋)
- ・姉です。聴覚障がいを持っており、支援を受けていますが、もう少し聴覚障がい者同士が交流できる場を作っていただきたいです。色々な障がいを持つ方がいらっしやるのに、ひとくくりに「障がい者」とし、活動内容や交流する場が作られているように感じるので、幅広く対応をしていただきたいです。(女性, 20 歳代)
- ・精神的な病気(詳細は不明)の方のご家族。患者本人が病院を拒否するため、ご家族の仕事、生活に影響がでて困っておられる。行政に相談機関があるので利用してほしい。(女性, 40 歳代)

(本人が自覚していない、拒否する等で利用できていない)

- ・福祉サービスに全く結びついていないのではないが、本人の意向と家族の意向にズレがあり、利用頻度に問題があるように思える。(男性, 40 歳代)
- ・母(80歳代)認知症を患っているが、まだ軽度と思われるが、本人が自覚していないため、介護認定も受けずにいる。日常の生活に不自由はないが、日頃仕事で母を一人にしているの、何かあった時が心配です。(女性, 40 歳代)

(ひとり親家庭)

- ・公営住宅に入れず、民間の賃貸で、ひとり親で子育てしている。通勤中に、ケガをし、育児、家事もままならないが、ひとり親なので、仕事も休めず、通院も週1回~2週に1回と極力行かないようにしているが、会社から嫌な顔をされ退職を迫られている。通院も減らしたためか、ケガの完治までには、ほど遠い状況で、転職なんて難しく、来月の今頃、子どもたちとどこで、どうしているのか…何の見通しも立たない。限界を感じる。(女性, 30 歳代)

(制度の狭間にいる)

- ・親子2人で生活、子どもは昼は仕事、日中は親が1人で留守番。身の回りの世話

が必要だが介護保険では同居者がいるため不可。(女性, 50歳代)

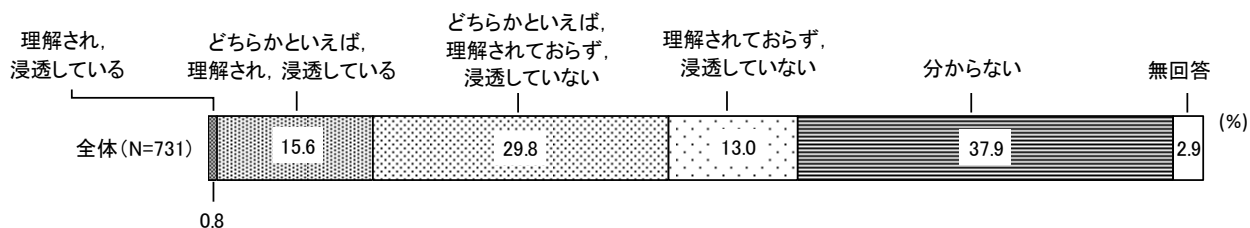
- ・断続的な体調不良により, 傷病手当等の保障を受けられない状況に対する不安がある。またこれに対する保障があるのか。(男性, 30歳代)

(4) 共生社会の実現状況の実感 (問 29)

問 29 「すべての人々が年齢や障害の有無によって分け隔てられることなく, 互いの人格と個性を尊重しあいながら共生する社会 (共生社会) を目指す」という考え方について, 調布市では市民に理解され, 浸透していると思いますか。(1つに○)

- 共生社会実現の状況の実感は, 《理解されている》*が 16.4%となっている。
- 一方, 《理解されていない》は 42.8%となっており, 《理解されている》と比べて 26.4 ポイント高くなっている。

図表 2-55 共生社会の実現状況の実感 (全体)



※ 《理解されている》: 「理解され, 浸透している」と「どちらかといえば, 理解され, 浸透している」の合計
 《理解されていない》: 「どちらかといえば, 理解されておらず, 浸透していない」, 「理解されておらず, 浸透していない」の合計

9 福祉のまちづくり

(1) バリアフリー化の状況 (問 30)

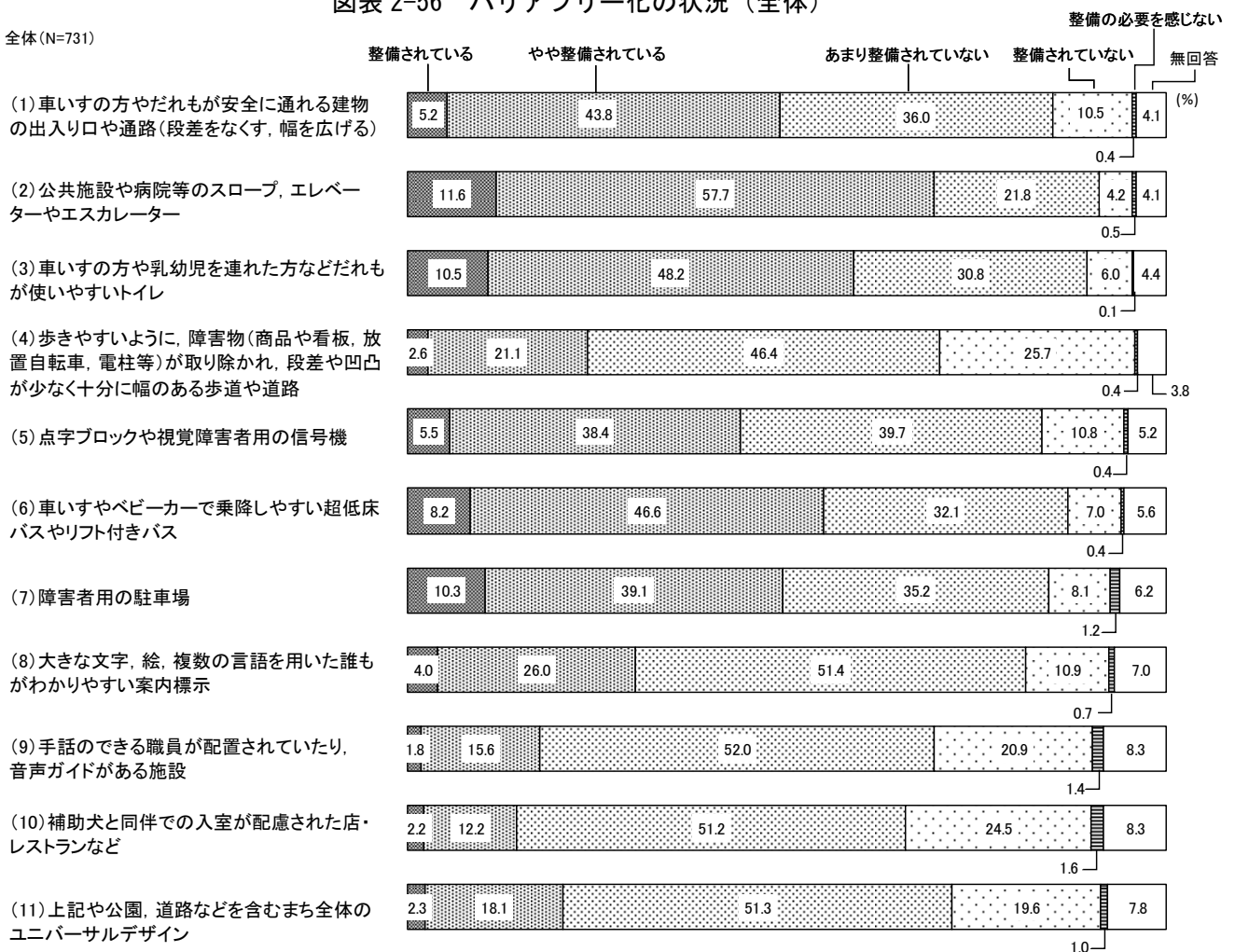
問 30 現在、調布市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路などについて、障害のある人や妊婦、子どもづれ、高齢者、外国人等が利用しやすいように整備されていると思いますか。

(1) ~ (11) について、それぞれ1つに○をつけてください。

- バリアフリー化の状況は、『公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』、『車いすの方や乳幼児を連れた方などだれもが使いやすいトイレ』では、《整備されている》※がそれぞれ69.3%、58.7%と高くなっている。
- 一方、『補助犬と同伴での入室が配慮された店・レストランなど』、『手話のできる職員が配置されていたり、音声ガイドがある施設』では、《整備されていない》※がそれぞれ75.7%、72.9%と高くなっている。

図表 2-56 バリアフリー化の状況 (全体)

全体(N=731)



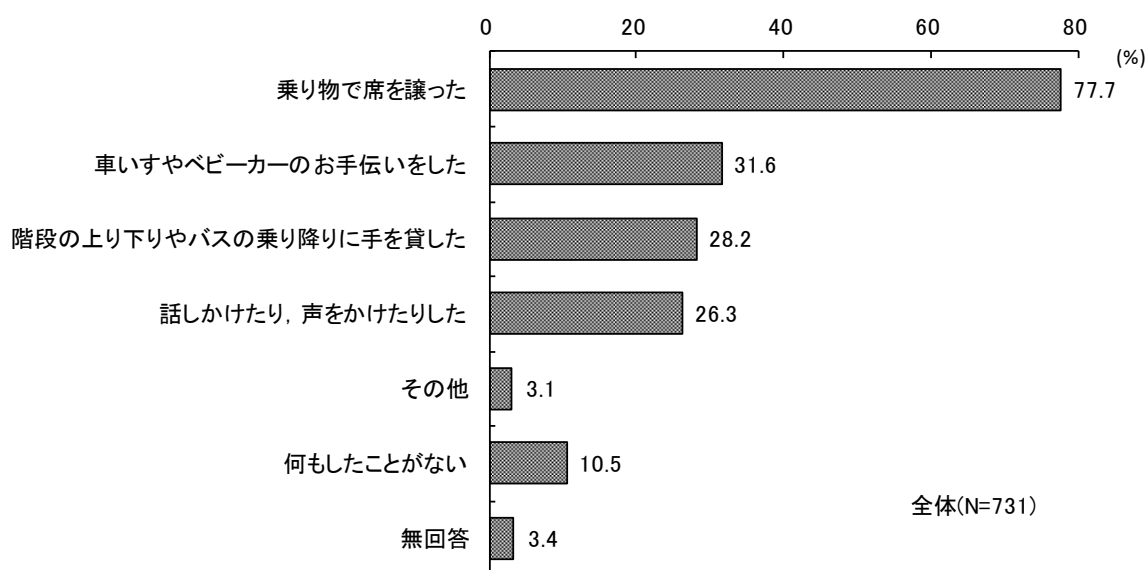
※ 《整備されている》: 「整備されている」と「やや整備されている」の合計
 《整備されていない》: 「あまり整備されていない」と「整備されていない」の合計

(2) 近所やまちで手助けをした経験 (問 31)

問 31 近所やまちで障害のある方、高齢者、妊婦や乳幼児を連れた方等にお手伝いをしたことがありますか。(いくつでも○)

- 近所やまちでの手助けの経験は、「乗り物で席を譲った (77.7%)」が最も多く、「車いすやベビーカーのお手伝いをした (31.6%)」、「階段の上り下りやバスの乗り降りに手を貸した (28.2%)」が続いている。

図表 2-57 近所やまちで手助けをした経験 (全体：複数回答)



10 介護や認知症への考え方

(1) 認知症のイメージ (問 32)

問 32 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いと思うものをお答えください。(1つに○)

- 全体では、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が4割台で最も多くなっている。
- 性・年代別にみると、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」の割合は、男性では年代が上がるほど高くなり、50～64歳では3割だが、女性はすべての年代で3割台となっている。
- また、男性・18～29歳は15.2%、女性・18～29歳は10.7%が「認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる」と答えており、若い世代で男女ともに1割を超えている。

図表 2-58 認知症のイメージ (全体, 性・年代別)

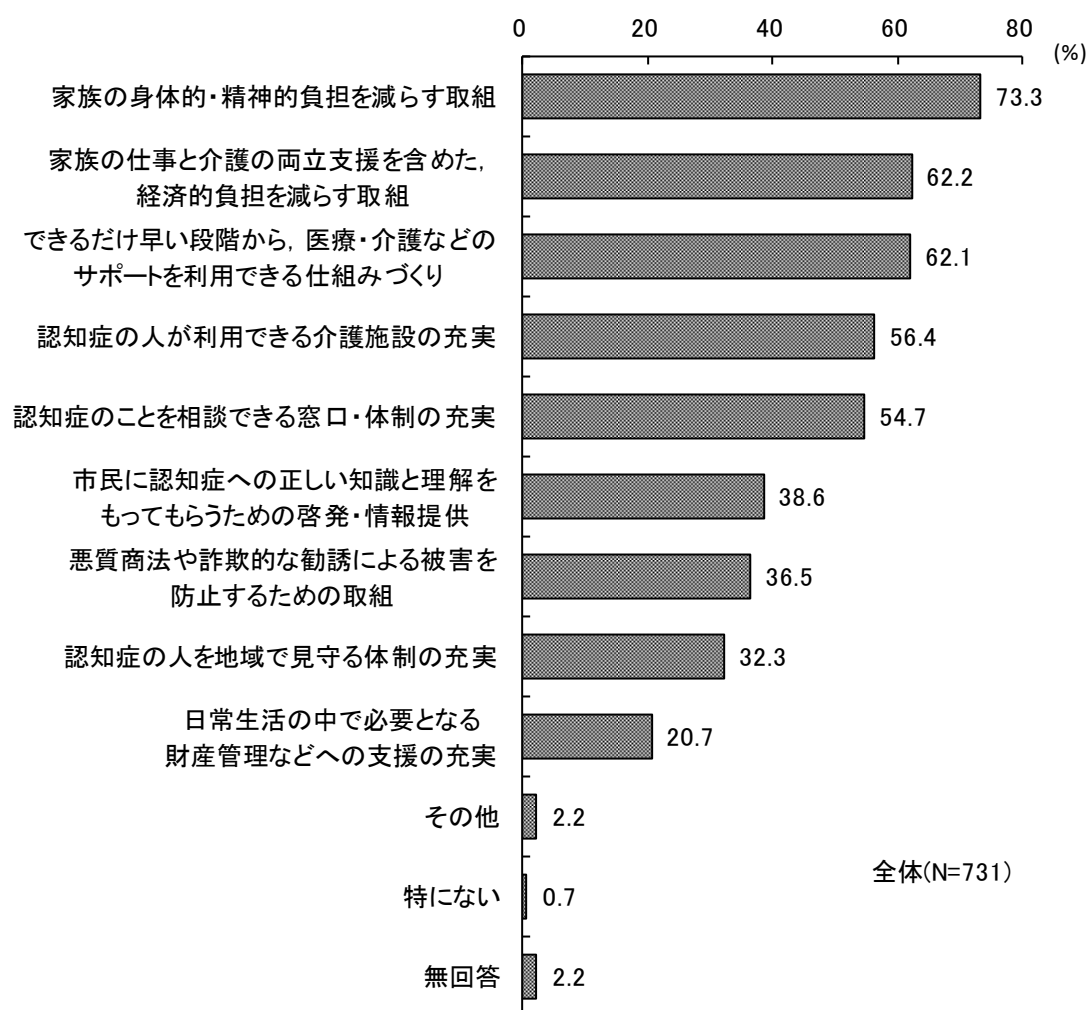
| | | | 域夫認 | たポ認 | すく認 | てに認 | も認 | 無 | |
|-------|----|---------|---------|------|------|------|------|------|------|
| | | | でし知 | 地ト知 | るな知 | に迷知 | で知 | 回 | |
| | | | 、て症 | 域ト症 | るな知 | きた惑症 | でき症 | 答 | |
| | | | 今補にな | でをにな | こり、に | たをにな | きな | | |
| | | | まなつても | 生利用つ | とが介 | 地をな | くな | | |
| | | | どがら、 | 活ししな | 必護施 | 域か | な | | |
| | | | おり、 | てなが、 | 要施設 | で生 | な | | |
| | | | 自今で | いけら、 | に身 | 活す | つ | | |
| | | | 立ま | る、 | 入の | まう | こ | | |
| | | | 的に暮 | 今、 | つて | るこ | と | | |
| | | | らし | 今、 | サの | が、 | 暴 | | |
| | | | でき | ま、 | ポこ | 暴 | 言 | | |
| | | | きた | 暮 | トが | し | 、 | | |
| | | | 地 | ら | を | 難 | 症 | | |
| | | | 工 | し | 利 | く | 状 | | |
| | | | | の | き | ま | が | | |
| | | | | サ | な | で | 進 | | |
| | | | | き | 用 | る | 行 | | |
| | | | | さ | な | ら | し | | |
| | | | | き | な | の | て | | |
| | | | | さ | な | 人 | ゆ | | |
| | | | | き | な | し | き | | |
| | | | | さ | な | し | 、 | | |
| | | | | き | な | し | 何 | | |
| 全 体 | | (N=731) | 3.7 | 32.6 | 44.2 | 7.5 | 7.5 | 4.5 | |
| 性・年代別 | 男性 | 18～29歳 | (n= 33) | 3.0 | 18.2 | 51.5 | 15.2 | 12.1 | 0.0 |
| | | 30～49歳 | (n=148) | 3.4 | 28.4 | 49.3 | 9.5 | 7.4 | 2.0 |
| | | 50～64歳 | (n=106) | 6.6 | 30.2 | 37.7 | 6.6 | 8.5 | 10.4 |
| | 女性 | 18～29歳 | (n= 56) | 1.8 | 33.9 | 51.8 | 10.7 | 1.8 | 0.0 |
| | | 30～49歳 | (n=218) | 1.8 | 36.2 | 42.7 | 6.9 | 8.3 | 4.1 |
| | | 50～64歳 | (n=156) | 5.8 | 34.6 | 43.6 | 3.8 | 7.1 | 5.1 |

(2) 求める認知症施策（問33）

問33 調布市の認知症施策でこれから必要だと思うことは次のどれですか。（いくつでも○）

- 必要だと思う認知症施策は、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組(73.3%)」が最も多く、「家族の仕事と介護の両立支援を含めた、経済的負担を減らす取組(62.2%)」、「できるだけ早い段階から医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり(62.1%)」が続いている。

図表 2-59 求める認知症施策（全体：複数回答）

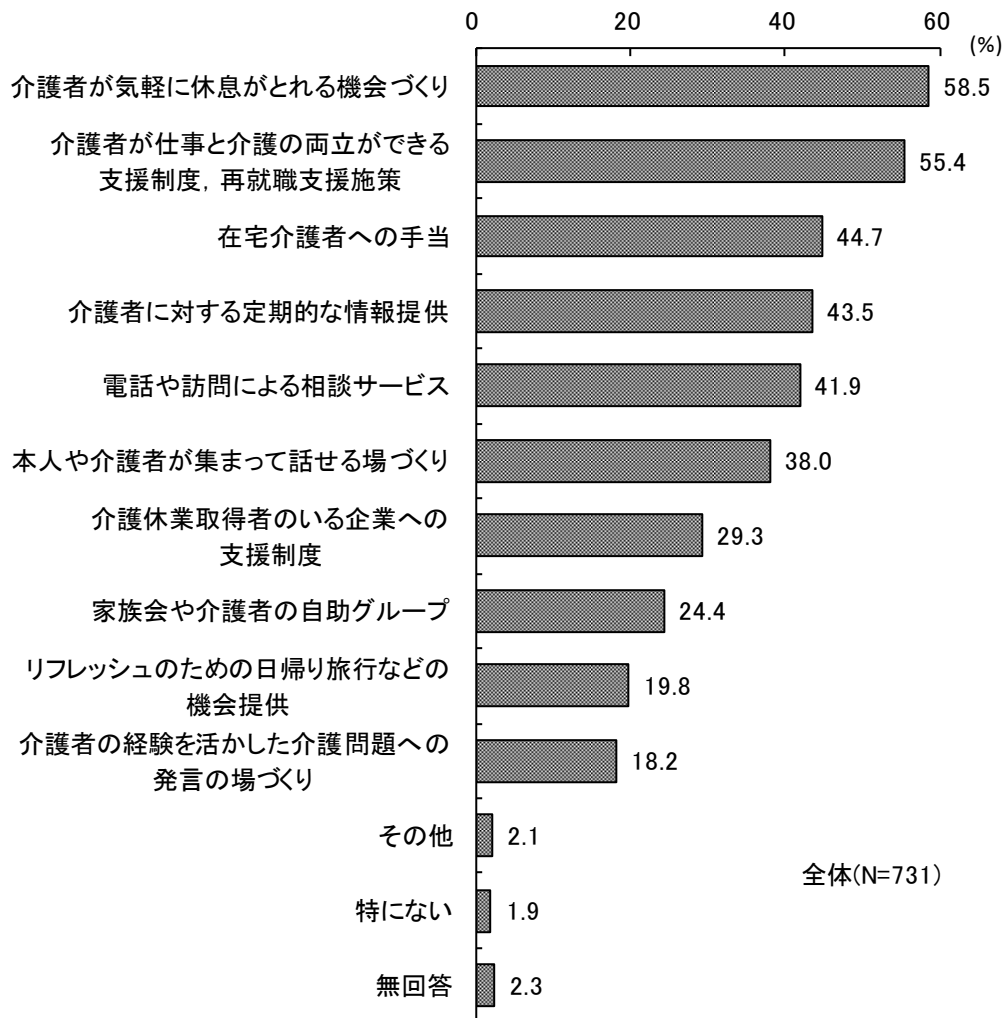


(3) 介護者に必要な支援 (問 34)

問 34 介護者支援策として、あなたが必要だと思うことは次のどれですか。(いくつでも○)

- 介護者に必要な支援は、「介護者が気軽に休息がとれる機会づくり (58.5%)」が最も多く、「介護者が仕事と介護の両立ができる支援制度, 再就職支援施策 (55.4%)」, 「在宅介護者への手当 (44.7%)」が続いている。

図表 2-60 介護者に必要な支援 (全体：複数回答)



11 障害のある人の地域生活

(1) 障害者差別解消法の認知度 (問 35)

問 35 平成 28 年 4 月から、「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」が施行されました。
あなたは、「障害者差別解消法」について、どの程度知っていましたか。（1つに○）

- 全体では、「内容も含めて知っている」は 9.7%である。
- 性・年代別にみると、18～29 歳では男女ともに約 1 割であるが、30～49 歳及び 50～64 歳では、男性は約 5%であるのに対し、女性は 10%を超えており、30 歳以上では女性の方が男性より、内容も含めて知っていることが分かる。
- また、「全く知らない」の割合は、男性・18～29 歳は 66.7%、女性・18～29 歳は 76.8%であり、男女ともに 18～29 歳が最も高くなっている。

図表 2-61 障害者差別解消法の認知度（全体，性・年代別）

(%)

| | | 知内 つ容 ても い含 るめ て | 内知法 容つ律 はて名 知い程 らる度 ながは い | 全 く 知 ら な い | 無 回 答 | |
|---------------|--------|---------------------------------|---|----------------------------|-------------|-----|
| 全 体 (N=731) | | 9.7 | 28.9 | 58.8 | 2.6 | |
| 性・ 年代 別 | 男 性 | 18～29歳 (n= 33) | 9.1 | 24.2 | 66.7 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 4.7 | 33.8 | 59.5 | 2.0 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 5.7 | 29.2 | 60.4 | 4.7 |
| | 女 性 | 18～29歳 (n= 56) | 10.7 | 12.5 | 76.8 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 12.8 | 24.8 | 60.6 | 1.8 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 12.8 | 35.9 | 48.1 | 3.2 |

(2) ヘルプカードの認知状況 (問 36)

問 36 あなたは、調布市が障害のある人に配布していて、災害時や日常生活の中で困ったときのその人の緊急連絡先や必要な支援内容などが記載されている「ヘルプカード」について知っていますか。(1つに○)

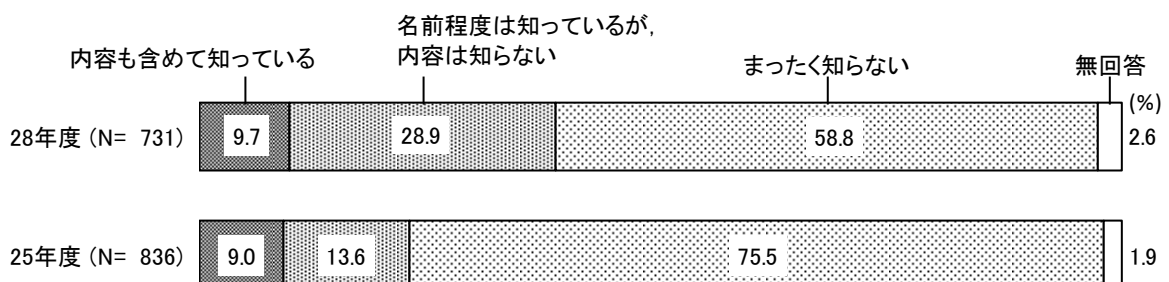
- 全体では、「内容も含めて知っている」は13.5%である。
- 性・年代別にみると、女性・30～49歳の「内容も含めて知っている」の割合は20.2%で、全体と比べて6.7ポイント高くなっている。
- また、いずれの年代でも、女性の方が男性に比べて「内容も含めて知っている」の割合が高くなっている。

図表 2-62 「ヘルプカード」の認知状況 (全体, 性・年代別)

| | | (%) | | | | |
|-----------------------|--------|----------------------------------|---|----------------------------|-------------|-----|
| | | 知内容 つても い含 める め て | はて名 知い らる 程 な が、 内 知 容 つ | 全 く 知 ら な い | 無 回 答 | |
| 全 体 (N=731) | | 13.5 | 17.2 | 66.8 | 2.5 | |
| 性 ・ 年 代 別 | 男 性 | 18～29歳 (n= 33) | 3.0 | 24.2 | 69.7 | 3.0 |
| | | 30～49歳 (n=148) | 8.8 | 13.5 | 76.4 | 1.4 |
| | | 50～64歳 (n=106) | 4.7 | 15.1 | 76.4 | 3.8 |
| | 女 性 | 18～29歳 (n= 56) | 10.7 | 23.2 | 66.1 | 0.0 |
| | | 30～49歳 (n=218) | 20.2 | 19.7 | 58.3 | 1.8 |
| | | 50～64歳 (n=156) | 17.9 | 14.7 | 64.1 | 3.2 |

- 経年で比較すると、28年度は25年度に比べ、「内容も含めて知っている」が4.5ポイント、「名前程度は知っているが、内容は知らない」が3.6ポイント高くなっており、認知度は微増しているが、8割以上の人には内容が理解されていないことがわかる。

図表 2-63 ヘルプカードの認知状況 (全体)【経年比較】



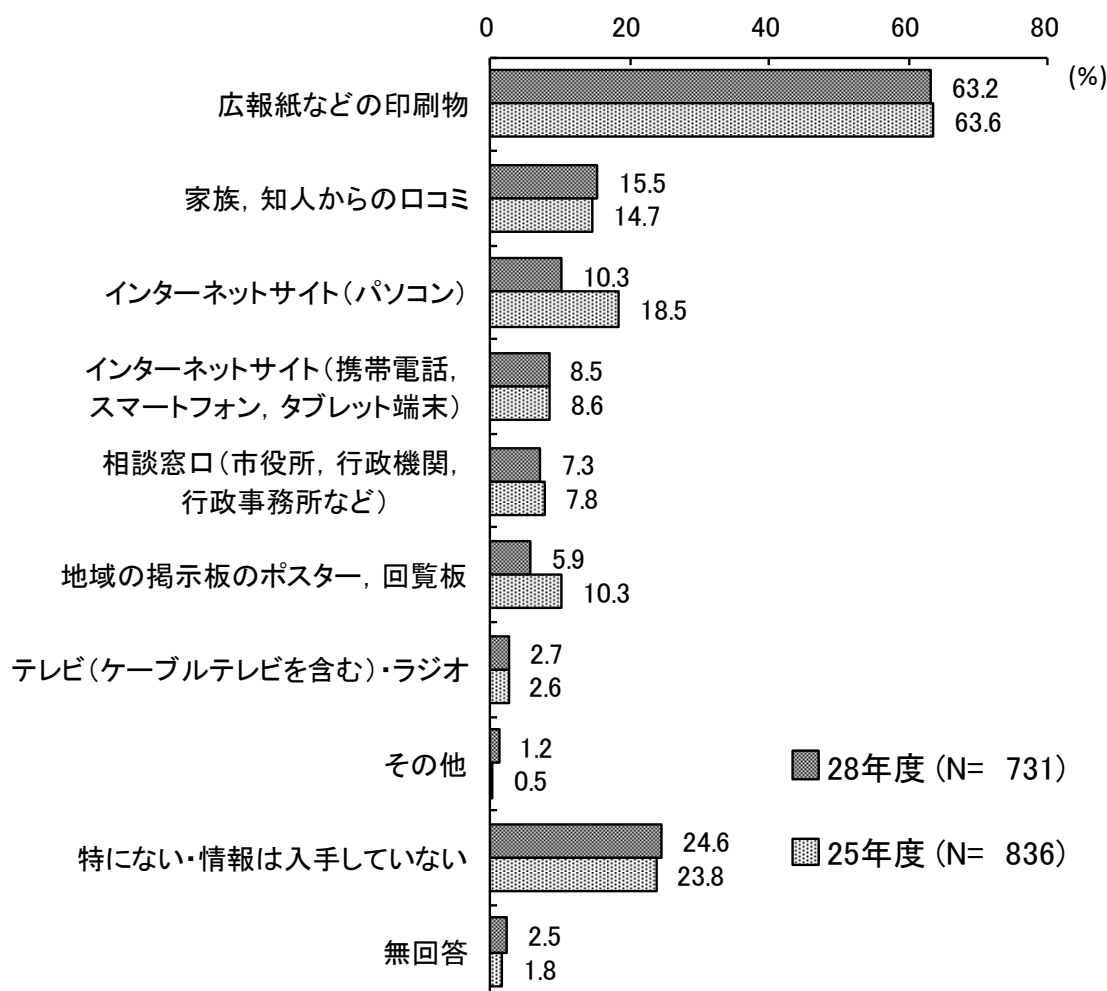
12 調布市の保健福祉施策

(1) 保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体（問37）

問37 あなたは、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報を、どこから入手していますか。（いくつでも○）

- 全体では、「広報紙などの印刷物（63.2%）」が最も多く、それ以外は2割未満である。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と同様、「広報紙などの印刷物」が約6割で最も多くなっている。
- また、28年度は25年度と比べ、「地域の掲示板のポスター、回覧板」は4.4ポイント低く、「インターネットサイト(パソコン)」は8.2ポイント低くなっている。

図表 2-64 保健福祉施策（サービス）に関する情報入手の媒体（全体：複数回答）【経年比較】



(2) 今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）（問 38）

問 38 調布市において、今後、特に力を入れていくべきと思う保健福祉施策（サービス）は何ですか。（3つまで○）

- 全体では、「高齢者の介護や生活支援施策（50.5%）」が最も多く、「少子化対策や子育て支援施策（49.0%）」、「高齢者や障害者等に配慮したまちづくり施策（27.6%）」が続いている。
- 年代別にみると、30歳代では「少子化対策や子育て支援施策」が7割を超えている。また、60歳代では「高齢者や障害者等に配慮したまちづくり施策」が4割、「高齢者の介護や生活支援施策」が6割で、全体より高くなっている。
- 性・年代別にみると、男性・18～29歳では「生活困窮者自立支援施策」が27.3%、「子どもの貧困対策」が36.4%と、全体より10ポイント以上高くなっている。この2つの選択肢は、男性では年代が上がるにつれ割合が低くなっている。また、「少子化対策や子育て支援施策」は、18～29歳では男女で同程度、30～49歳と50～64歳では男性の方が女性より高くなっている。
- 地域別にみると、西部地域では「障害者（児）支援施策」が全体に比べ6.7ポイント、南部地域では「高齢者の介護や生活支援施策」が全体に比べ5.4ポイント、北部地域では「少子化対策や子育て支援施策」が全体に比べ5.6ポイント、それぞれ高くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしは「生活困窮者自立支援施策」が27.2%であり、全体に比べて14.5ポイント高くなっている。

図表 2-65 今後力を入れるべき保健福祉施策（サービス）

（全体、年代別、性・年代別、地域別、家族構成別：複数回答（3つまで））

| | | 育少 | 援障 | 生高 | り市 | や市 | 施動 | ポ | 支生 | 策子 | ち等 | 高 | そ | 無 | |
|----|---------------|----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|---|--|
| | | 子化 | 障者 | 活高 | 施民 | や市 | 策の | ラン | 援活 | ども | づに | 齢者 | 他 | 回 | |
| | | 対策 | （児 | 者の | 民の | 社会 | 振興 | ティ | 弱者 | の貧 | く配 | や障 | | 答 | |
| | | や子 | ）支 | 介護 | 健康 | 参加 | ・イ | ア | 自 | 困対 | 慮し | 害者 | | | |
| | | 策 | 援 | や | づく | への | 支 | 援 | 立 | 策 | た | ま | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全 | 体 (N=731) | 49.0 | 22.4 | 50.5 | 18.6 | 10.7 | 9.3 | 12.7 | 24.1 | 27.6 | 3.7 | 3.8 | | | |
| 年 | 10歳代 (n=15) | 60.0 | 33.3 | 33.3 | 13.3 | 33.3 | 20.0 | 6.7 | 26.7 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | | | |
| | 20歳代 (n=74) | 60.8 | 18.9 | 36.5 | 21.6 | 4.1 | 10.8 | 16.2 | 31.1 | 24.3 | 6.8 | 1.4 | | | |
| | 30歳代 (n=158) | 72.2 | 27.2 | 39.2 | 17.7 | 6.3 | 5.1 | 10.1 | 24.7 | 24.1 | 3.2 | 1.3 | | | |
| | 40歳代 (n=208) | 49.0 | 23.1 | 54.8 | 15.9 | 8.7 | 8.7 | 14.4 | 24.5 | 27.4 | 2.9 | 5.8 | | | |
| | 50歳代 (n=180) | 31.1 | 18.9 | 58.3 | 19.4 | 17.2 | 11.7 | 10.6 | 22.2 | 28.9 | 6.1 | 4.4 | | | |
| | 60歳代 (n=83) | 34.9 | 19.3 | 60.2 | 22.9 | 13.3 | 12.0 | 16.9 | 20.5 | 39.8 | 0.0 | 2.4 | | | |
| 性・ | 男 | 18～29歳 (n=33) | 60.6 | 18.2 | 39.4 | 21.2 | 12.1 | 18.2 | 27.3 | 36.4 | 33.3 | 3.0 | 0.0 | | |
| | | 30～49歳 (n=148) | 66.2 | 27.7 | 39.2 | 17.6 | 5.4 | 6.8 | 11.5 | 24.3 | 22.3 | 2.7 | 2.7 | | |
| | | 50～64歳 (n=106) | 40.6 | 17.0 | 57.5 | 21.7 | 17.9 | 10.4 | 9.4 | 16.0 | 35.8 | 4.7 | 2.8 | | |
| | 女 | 18～29歳 (n=56) | 60.7 | 23.2 | 33.9 | 19.6 | 7.1 | 8.9 | 7.1 | 26.8 | 14.3 | 7.1 | 1.8 | | |
| | | 30～49歳 (n=218) | 54.1 | 22.9 | 54.1 | 16.1 | 9.2 | 7.3 | 13.3 | 24.8 | 28.4 | 3.2 | 4.6 | | |
| | | 50～64歳 (n=156) | 26.3 | 20.5 | 59.6 | 19.9 | 14.7 | 12.8 | 14.7 | 25.0 | 30.1 | 3.8 | 4.5 | | |
| 地 | 東部地域 (n=162) | 53.1 | 21.6 | 47.5 | 17.9 | 11.7 | 9.3 | 15.4 | 20.4 | 28.4 | 3.7 | 3.7 | | | |
| | 西部地域 (n=213) | 44.1 | 29.1 | 48.8 | 18.8 | 12.2 | 10.8 | 12.2 | 26.3 | 23.9 | 3.3 | 3.3 | | | |
| | 南部地域 (n=170) | 46.5 | 18.8 | 55.9 | 21.8 | 11.8 | 9.4 | 13.5 | 26.5 | 32.4 | 5.9 | 1.8 | | | |
| | 北部地域 (n=152) | 54.6 | 20.4 | 51.3 | 15.8 | 6.6 | 6.6 | 10.5 | 21.7 | 24.3 | 2.0 | 5.3 | | | |
| 家 | ひとり暮らし (n=92) | 39.1 | 18.5 | 46.7 | 23.9 | 13.0 | 9.8 | 27.2 | 29.3 | 30.4 | 5.4 | 3.3 | | | |
| | その他 (n=629) | 50.1 | 23.1 | 51.5 | 17.8 | 10.5 | 9.2 | 10.8 | 23.5 | 27.5 | 3.3 | 3.5 | | | |

(3) 保健福祉施策（サービス）の充実のために重要だと思う取組（問39）

問39 調布市の保健福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなたが重要と思う取組はどれですか。（3つまで○）

- 全体では、「在宅サービス（ホームヘルプサービス、デイサービスなど）の質と量の確保（50.3%）」が最も多く、「相談や情報提供体制の充実（43.4%）」、「入所施設サービスの質と量の確保（40.1%）」が続いている。
- 年代別にみると、40歳代と50歳代では「在宅サービス（ホームヘルプサービス、デイサービスなど）の質と量の確保」が全体に比べ約6ポイント高くなっている。
- 性・年代別にみると、男性・18～29歳では「民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化」が全体に比べ14.1ポイント、「市民、関連団体、行政の連携と協働の推進」が全体と比べて12.2ポイント高くなっている。また、女性・18～29歳では「ボランティア団体やNPOなどの育成・活動支援」が全体と比べて5.0ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、東部地域では「民間活力の導入による福祉サービスの確保と活性化」が全体に比べ5.5ポイント高く、南部地域では「相談や情報提供体制の充実」が全体に比べ5.4ポイント高くなっている。
- 家族構成別にみると、ひとり暮らしは「利用者の立場や権利を保護・擁護する制度の充実」が31.5%であり、全体に比べて8.7ポイント高くなっている。

図表 2-66 保健福祉施策（サービス）の充実のために重要だと思う取組
（全体、年代別、性・年代別、地域別、家族構成別：複数回答（3つまで））

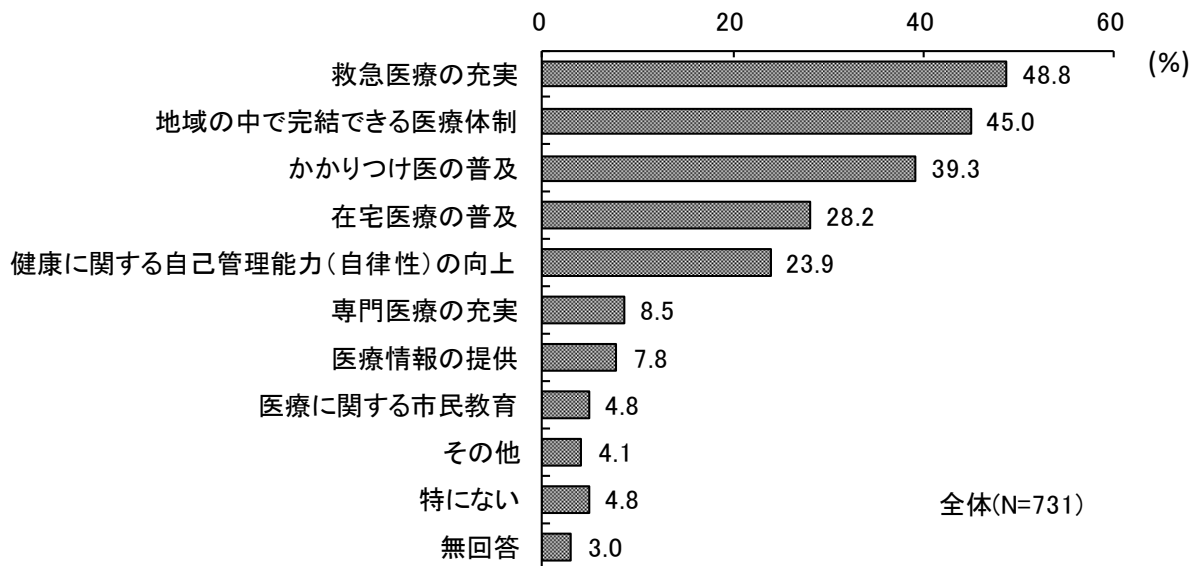
| | | の相談や情報提供体制の充実 | 利用者の立場や権利の保護・擁護する制度の充実 | 在宅サービスの質と量の確保 | 入所施設サービスの質と量の確保 | NPOなどの育成・活動支援 | 市民相互の助け合いの活性化 | 民間活力の導入による福祉サービスの確保 | 市民、関連団体・協働の推進 | 市民への福祉意識の啓発 | その他 | 無回答 |
|----------------|----------------|---------------|------------------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|---------------------|---------------|-------------|-----|-----|
| 全体 | (N=731) | 43.4 | 22.8 | 50.3 | 40.1 | 11.1 | 15.6 | 19.2 | 12.0 | 10.9 | 2.9 | 4.0 |
| 年代別 | 10歳代 (n=15) | 46.7 | 20.0 | 53.3 | 33.3 | 0.0 | 20.0 | 33.3 | 13.3 | 13.3 | 0.0 | 6.7 |
| | 20歳代 (n=74) | 41.9 | 24.3 | 41.9 | 28.4 | 18.9 | 17.6 | 20.3 | 17.6 | 13.5 | 1.4 | 0.0 |
| | 30歳代 (n=158) | 43.7 | 26.6 | 41.8 | 34.8 | 12.0 | 17.1 | 20.3 | 15.8 | 10.1 | 3.8 | 3.2 |
| | 40歳代 (n=208) | 46.2 | 24.0 | 56.3 | 44.2 | 7.7 | 15.4 | 14.9 | 11.5 | 8.2 | 3.8 | 3.8 |
| | 50歳代 (n=180) | 44.4 | 19.4 | 56.1 | 42.8 | 10.0 | 12.8 | 23.3 | 9.4 | 12.2 | 1.7 | 4.4 |
| | 60歳代 (n=83) | 34.9 | 21.7 | 47.0 | 44.6 | 14.5 | 16.9 | 14.5 | 6.0 | 15.7 | 3.6 | 4.8 |
| 性・年代別 | 男性 | | | | | | | | | | | |
| | 18～29歳 (n=33) | 36.4 | 24.2 | 39.4 | 24.2 | 15.2 | 18.2 | 33.3 | 24.2 | 12.1 | 3.0 | 0.0 |
| | 30～49歳 (n=148) | 42.6 | 24.3 | 47.3 | 37.8 | 11.5 | 16.2 | 18.2 | 12.8 | 8.8 | 2.7 | 3.4 |
| | 50～64歳 (n=106) | 37.7 | 17.0 | 54.7 | 43.4 | 12.3 | 16.0 | 19.8 | 8.5 | 14.2 | 3.8 | 5.7 |
| | 女性 | | | | | | | | | | | |
| | 18～29歳 (n=56) | 46.4 | 23.2 | 46.4 | 32.1 | 16.1 | 17.9 | 16.1 | 12.5 | 14.3 | 0.0 | 1.8 |
| 30～49歳 (n=218) | 46.8 | 25.7 | 51.8 | 41.7 | 8.3 | 16.1 | 16.5 | 13.8 | 9.2 | 4.6 | 3.7 | |
| 50～64歳 (n=156) | 44.2 | 21.8 | 51.9 | 42.9 | 10.9 | 12.8 | 21.2 | 8.3 | 12.8 | 1.3 | 3.8 | |
| 地域別 | 東部地域 (n=162) | 43.8 | 21.6 | 51.2 | 39.5 | 14.2 | 16.7 | 24.7 | 10.5 | 9.3 | 3.1 | 3.1 |
| | 西部地域 (n=213) | 42.3 | 23.9 | 45.5 | 37.6 | 10.3 | 16.4 | 17.4 | 15.5 | 10.8 | 2.8 | 3.3 |
| | 南部地域 (n=170) | 48.8 | 24.1 | 52.4 | 39.4 | 11.8 | 15.3 | 18.2 | 12.9 | 11.2 | 2.4 | 2.9 |
| | 北部地域 (n=152) | 38.2 | 21.7 | 53.9 | 44.7 | 7.2 | 13.8 | 16.4 | 8.6 | 13.2 | 3.3 | 5.3 |
| 家族構成別 | ひとり暮らし (n=92) | 46.7 | 31.5 | 39.1 | 35.9 | 15.2 | 15.2 | 21.7 | 13.0 | 10.9 | 1.1 | 4.3 |
| | その他 (n=629) | 42.9 | 21.9 | 52.5 | 41.0 | 10.2 | 15.6 | 18.6 | 11.9 | 11.1 | 3.2 | 3.7 |

(4) 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと (問 40)

問 40 調布市の医療をよりよくするために何が必要だと思いますか。(いくつでも○)

- 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うことは、「救急医療の充実 (48.8%)」が最も多く、「地域の中で完結できる医療体制 (45.0%)」、「かかりつけ医の普及 (39.3%)」が続いている。

図表 2-67 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと (全体：複数回答)



13 市への要望 (問 41)

問 41 最後に、地域づくりに必要なことや調布市の地域福祉施策についてのご要望・ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

- 調布市の地域づくりに必要なことや調布市の地域福祉施策についての要望・意見を自由記述形式でたずねたところ、224 件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

① まち・環境について (48 件)

- ・今、自転車に乗ることが多いのですが、歩行者も多く、自動車も多く、おまけに自転車を利用している人も多いので道がせまいです。車道側を走れば車にクラクションを鳴らされ、歩道を走ると歩行者に文句を言われるのでこれからは自転車専用道路も色分けで良いのであると便利だと思います。(男性, 40 歳代)
- ・仙川駅周辺では新しいお店ができて長く定着しないことがある。地域づくりの観点で、そういった問題に取りくんでいけないのか。(男性, 30 歳代)
- ・車いす、ベビーカーを使用しているも、安全に歩ける歩道の整備を早急に進めてもらいたい。(女性, 40 歳代)

② 保育・子育て・教育について (39件)

- ・現在、2人の子どもがいます。3人目もできればほしいと思いますが、経済的なことを考えると、積極的には考えられません。保育園に確実に預けられるかどうか分からないので、あきらめようかと思っています。年齢的にもギリギリなので、スピードのある子育て施策を実施して欲しいです。(女性、30歳代)
- ・健康診断時にあわせて託児サービスに申し込みをしたいのですが、すぐうまってしまうため、一時的に現地で託児を可能にいただける場があるととても助かります。また、そういったボランティアがあれば参加したいと思います(女性、40歳代)
- ・お年寄が集ってお茶をしながら、子どもを見てくれるような場所があればいいと思います。(女性、30歳代)
- ・すこやか保育やベイビーすこよかの存在を知り、期待して利用したことがあるが、いくつかの点で不満が残った。多くの市民が利用できる福祉施策が必要だと思うが、既存のサービスの質の向上もめざしてほしい。顔や名前を覚えられるような関係になれば、もっと利用しやすいと思う。(女性、40歳代、抜粋)
- ・未来を創造する子ども達への支援を最大限支援するべきである。優先してください。我々老人に入る人間は思う。子ども達に資金を使うべきである。子ども地域福祉を優先してください。(男性、50歳代、抜粋)

③ 市の福祉施策・サービスについて (33件)

- ・何かしら、全国で初めての取組に挑戦して欲しい。(女性、30歳代)
- ・制度が整っていても職員への教育がしっかりされていないと意味がないと思います。度々市へ地域のことを相談しても何の解決もなく嫌な気分です。制度だけ立派なものにするのではなく、利用しやすい環境を作ってください。みんなの税金で運営するのですから！！(女性、30歳代)
- ・調布市としては他市に比べると良い方だと感じております。市民が利用しやすいよう、また、平等な福祉をお願いしたいです。不自由な人達も住みやすい市にしてほしいです。(男性、50歳代)
- ・市役所、社協職員の方の労働時間の制限により、地域での福祉活動がやりにくく、参加しにくくなりました。仕事を持つ者が地域活動に参加しようと思った場合に、受付、会議開催などが職員の方の労働時間(平日昼間)に変更されてきています。専業主婦の方、退職後の高齢者など時間調整のつく方々だけの参加で良いと思われているのでしょうか。市外で仕事をしている人こそ地域との関係づくりがしにくいので、土・日・夜間など活動に参加しやすい対応を希望します。参加の機会が奪われ残念です。(女性、40歳代)

④ 地域活動・社会参加について (16件)

- ・地域の活動は小学校単位で行なわれているものが多く、子どもがいるおかげで参加する機会もありましたが、現在中学生のため、少なくなりました。子どものいないご家庭などでは、地域運動会や防災訓練など、参加しにくいのではないかと

思われます。(女性, 50 歳代, 抜粋)

- ・私は、大学入学とともに東京へ上京してそのまま就職しております。今回のアンケートでは、あまり地域の活動には参加できず、日々、仕事とその他ものづくりに関わることで日々過ごしてしまっていることに気付きました。自分も良い年頃ですし、今後の地域福祉に関わるきっかけがあれば参加していきたいと思いました。(女性, 40 歳代)

⑤ 情報について (14 件)

- ・現在の市の取組みがわからない。調布市に初めて越して来た人がわかるような資料作りをしてほしいです。(男性, 30 歳代)
- ・調布市地域福祉計画というものを知らなかった。市としてどのような課題が考えられているのか、またその課題に対する市民の意識など、情報を提供して欲しいと思った。(男性, 30 歳代)
- ・民間賃貸に住んでいる人(特に1人暮らしの人)には、地域の交流や、いろんな会へのお誘いなどのお知らせが、自分で調べない限り届いていないのが現状だと思います。(女性, 30 歳代)
- ・近所付き合いがしたくても、きっかけがありません。夏の例大祭でおみこしをかつぎたかったのですが、自分の地域がどこに該当するのかも分かりませんでした。ネットもみましたが、情報がなく、もっと情報公開してほしいです。印刷物は、情報をみたい時にすぐチェックできないので、ネット上で確認ができれば、ありがたいです。(女性, 30 歳代)

⑥ 高齢者・介護・老後のことについて (13 件)

- ・調布市内の金融機関に勤めていますが、振込、還付金詐欺の被害件数が多いことに驚きます。被害者にも注意が必要ですが、市としてできることもあるのではないのでしょうか。詐欺対策のための電話機を無料貸し出ししている自治体もあります。こちらがどんなにヒアリングしても被害者(高齢者)の方は信じきってしまって頑なになっています。被害が都内1位・2位のどちらかとなっていることから、高齢者を対象にしたセミナーを開くなどできたらと思います。(女性, 50 歳代)
- ・介護、とりわけ在宅介護サービスにおける訪問介護においては需要ばかり増え、供給が追いつかなくなっていると年々感じております。現場でどのような問題が起きているのかを知ってほしいと考えます。それを知るのは現場に一定期間入ることだと思います。机の上で想像しても理解できないことが沢山あるからです。(男性, 40 歳代)
- ・2025年問題、不安です。認知症になっても病気をもっていても、住み慣れた調布で死ぬまで生活をしたいと思っています。在宅での生活ができなくなった場合老後は入れる施設はあるのでしょうか。特養、老健数は少ないし、お金も必要です。(女性, 40 歳代, 抜粋)
- ・仕事をしているので今後、親の介護が必要になったときに仕事を辞めなくてはならないのかと不安です。仕事も続けながら介護もできるような充実したサポート

が受けられるとよいのですが。サービスを受けるのに、規制があったり料金がかかたりするのでは思うようなサービスが受けられないのでは。高齢者が増えていく中でむずかしいと思いますが、そういう時に近所の助けが必要なのかも…
(女性, 50 歳代, 抜粋)

⑦ 健康・医療について (11 件)

- ・乳ガン, 子宮ガン検診をもっと若い年齢から受けられるようにしてほしい。もしくは有料で安く受けられる, といったサービスでもいい。(女性, 30 歳代)
- ・まずは個人個人が健康であることが大事だと思います。そのためには病気を予防することが第一です。健康に過ごすためにはどうしたらよいのか, どんな取り組みをすればよいのかなどの啓発, 具体的な行動などに対して市民に情報をさらに発信してほしいし, 運動教室などももう少し, 数を増やしてほしいと思います。
(女性, 60 歳代)
- ・在宅医療, 地域も大事ですが, 市の方で, 健康でいるために, 体操や, 健康でいるためのお話しなど, 医者にかからない様な生活をするようにした方が, 良いと思います。(女性, 50 歳代, 抜粋)

⑧ 近所づきあいについて (6 件)

- ・ひとり暮らしなので, 地域と交流する必要をあまり感じない。むしろ, 地域の人に関わって名前などを知られるのは怖い。かといってフリーライダーのように思われるのも心外なので, 地域の助け合いを推進するより, 有料/ (税金で助成などして) 低価格の多様なサービスを展開する方が時代に合っているのではないかと思う。(女性, 20 歳代)
- ・自分は現在助けが必要ではないが, 災害時も含め助けが必要な人がいたら手伝いたい気持ちはある。ただ近所にどんな方が住んでいるかわからず, でも近所にどんな方が住んでいるのか知るのとはとても難しいことのように思う。(女性, 30 歳代)

⑨ 障害のある人への対応について (6 件)

- ・視覚障害者の方への配慮の少ない人々が住む町だと感じます。白杖を持っている人に優しくない。誘導ブロックを塞いでいる人を多く見ます。(女性, 60 歳代, 抜粋)
- ・障害者理解をすすめてほしい。そしてその「障害者」は知的障害者が多数を占めるということを, 忘れないでほしい。一般の人たちにとっては手を差しのべるのは難しいからこそ, 行政の方々に障害者理解の啓発を期待しています。(女性, 50 歳代)

⑩ 生活困窮者, 子どもの貧困について (6 件)

- ・本当に「その人の立場」になって考えていただきたいです。私自身, 介護や, 育児, ひとり親等, 色々経験しておりますが, 結局, 貧困世帯は貧困であり, どんなに相談しても, 事務的な扱いで, 「法の狭間」と言う言葉で片付けられてしまい, 解決策なんてありませんでした。今現在, 何とか食いつないでいる状況ではありますが, 子どもが高校や大学に安心して進学できる環境を望みます。(女性,

30 歳代)

- ・私は子どもの貧困について、とても気にしています。塾に行けない子どもたちも多いと考えます。調布市は大学も多くあり、支援してくださる方も（大学生など）多いと考えます。みんなが伸び伸びと好きなことを勉強できる環境だと良いと思います。（男性，40 歳代）

⑪ 相談について（5 件）

- ・今はまだ当事者となっていないこともあり、具体的に思いつけることがほとんどない状態であることが、よく自覚できました。ただ、漠然と、いざという時はまず市役所に行ってみようとは考えつくので、市役所における窓口や案内の充実を期待します。（女性，40 歳代）
- ・現代のプライバシー感覚に合った対応を希望します。本当に困っていることは「窓口」では相談できないと感じています。また、相談業務こそ、人柄と経験値が必要だと痛感しました。（女性，40 歳代）

⑫ 福祉意識について（4 件）

- ・少子高齢化により今後さらに厳しい時代になると思います。自己責任で他人に干渉しない風潮で困っている人を救うことにみな興味がない。これは、教育から意識改善していくしかないと思います。子どもたちに、「困った時は、お互い様」という意識を。そのために教育機関との連携が必要なのではないかと感じます。（男性，30 歳代）
- ・小学校のうちから道徳心を向上させる教育が足りていないのかもしれないと感じる出来事をよく目にする気がします。私も調布市立の教育をうけ育ちましたが、他人の心を思いやるこころの教育が基本となり、成人後の調布市をあたたかい街にする土台になるのではないかと感じます。（男性，40 歳代，抜粋）

⑬ アンケートについて（12 件）

- ・本調査票は意見を言える良い機会になるので、良い活動と思います。是非継続していただければと思います。（男性，30 歳代，抜粋）
- ・住民懇談会等は地域づくりに関心のある人が参加すると思うので、こうした無作為のアンケートは、とても有意義だと思います。（女性，50 歳代）
- ・質問が多すぎて回答するのがとても負担がかかる。集計する方も大変でしょうけど。（女性，40 歳代）

⑭ その他（11 件）

- ・今回改めて、福祉について考えさせられました。あまり意識していなかったのですが、これから意識していきたいと思います。（女性，50 歳代）
- ・高齢者や障害者だけに優しい社会を作っても、地域経済を動かしている青年にはあまりメリットはなく、「楽しく生きる」ことに対してのモチベーションが上がらない。活気を生み出すような青年をターゲットにした施策を考えてほしい。（男性，30 歳代）